

VI 資料編

- 1 アンケート集計結果_未就学児
- 2 アンケート集計結果_小学校低学年
- 3 子育て世帯アンケート調査結果報告書

(2023年 須坂市子育て就労協議会実施)

2024 年度 第 3 期 須坂市子ども子育て支援事業計画策定

概要版

子ども・子育て アンケート調査結果報告

未就学児

【ニーズ調査】

1. 実施主体

須坂市教育委員会

2. 調査概要

第3期子ども子育て支援事業計画策定のため子育てに係るサービスやその支援に関するニーズ状況の把握のため

3. 実施時期

2024年3月から4月

4. 実施方法

アンケート形式によるインターネット調査（通知を郵送）

5. 回答方法

インターネットによる回答

6. 調査対象

住民基本台帳から無作為抽出

※①0歳から6歳（未就学児童）850人

②7歳から12歳（小学校1年生から3年在学）570人

※条件 ①と②が同一世帯とならない児童

7. 回答数

①349先（41.1%） ②231先（40.5%）

①未就学児童アンケート

②小学校低学年アンケート

■アンケート回答者属性

- アンケート回答者の81.9%が母親。
- 「父母ともに」子育てを行っているが61.9%。一方、主に「母親」が38.1%と母親への子育ての負担の偏りがみられる。
- 母親の就業状況は、「パート・アルバイト等で就労している」(30.1%)、「フルタイムで就労している」(23.2%)、「産休・育休・介護休業中」(19.2%)、「以前は就労していたが、現在は就労していない」(19.2%)など多様である。
- フルタイムへの希望については、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望している」が51.7%と最も高い。「フルタイムへの希望はあるが、実現できる見込みはない」が33.3%と小学生低学年の回答に比べ、10ポイント以上低位。

■子育て環境（周囲の協力、相談場所等）

- 子育てに日常的に関わっている方や施設では、「父母ともに」が80.5%と最も高く、次いで「保育所」(42.7%)、「祖父母」(39.5%)となっている。
- 子育てに、もっとも影響すると思う環境は、「家庭」が96.8%と最も高く、次いで「放課後児童クラブ」が47.6%であった。
- 日頃から子どもをみてもらえる親族・知人の有無については、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が60.7%と最も高く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」31.8%となっている。一方、11.5%が「いずれもない」と回答。
- 半数近くが「祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約をあまり心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」と回答。一方、祖父母等の親族の負担や時間的な制約や精神的な負担が大きく心配している旨の回答もそれぞれ2割以上あり、安心してみえてもらえる環境づくりが求められている。
- 子育てをする上で、91.1%が気軽に相談できる人や場所もあると回答している。一方、相談できる人がいなく、相談場所もないが7.7%であった。
- 具体的な相談できる人や場所として、「祖父母等の親族」が75.1%と最も高く、次いで、「友人・知人」が59.6%であった。

■定期的な教育・保育事業の利用について

- 現在の「定期的な教育・保育事業」の利用については、「利用している」が58.2%、「利用していない」が37.0%。
- 平日に利用している教育・保育事業として、「認可保育所」が63.1%と最も高く、「認定こども園」が24.6%。また、利用における満足度については、「満足」および「やや満足」を合算すると68%となっている。一方、「不満」および「やや不満」は5.4%と低位。
- 平日に教育・保育事業を利用する理由として、「子育てをしている方が現在就労している」が80.8%と最も高く、次いで「お子さんの教育や発達のため」が47.3%であった。
- 一方、現在、教育・保育事業を利用しない理由については、「利用する必要がない(子どもの教育や発達のため、子どもの母親か父親が就労していないなどの理由で)」が55.8%と最も高い。また、「利用したいが、経済的な理由で事業を利用できない」(10.1%)、「利用したいが、保育・教育事業に空きがない」(7.8%)が理由として挙げられている。その他の理由として、「産まれたばかり」、「これから利用したい」、「育児休業中であるから」など。

■定期的な教育・保育事業の利用について

- 子育て支援センター・児童センター・保育所の園開放などを利用しない理由については、「行くのがめんどろ」31.3%が最も高く、次いで「行きづらい雰囲気」(23.3%)、「必要ない」(18.5%)が続いている。その他の理由として、「小学生の上の子がいると利用しにくい」、「日曜にやっていない」、「事前予約が必要になり、気軽に行けない」など。
- 現在実施している子育て事業の利用状況については、「保健センターの情報・相談事業」や「妊娠・子育てなんでも相談「おひさま」は6割を超える方が「知っている」と回答。
- 一方、利用状況については、「マタニティセミナー(保健センター) やすくすく育児ランド(子育て支援センター)」や「須坂市子育て応援アプリ「すまいるナビ」」が25%を超える方が「利用したことがある」と回答。
- また、「今後利用したい」子育て事業として、「教育相談室」(25.8%)や「公立保育所での子育て相談」(23.2%)が挙げる方が2割を超えている。

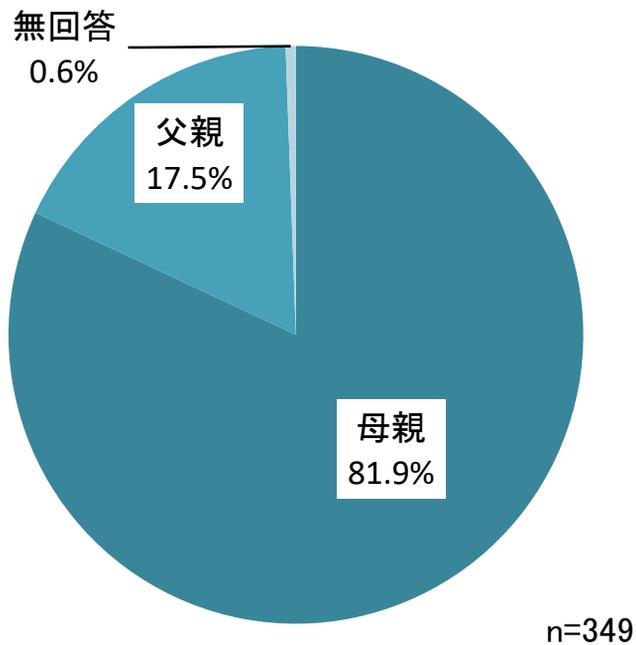
■休日の教育・保育事業の利用希望や利用状況

- 土曜日の「定期的な」教育・保育の事業の利用希望について、「利用する必要がない」が57.6%と最も高く、「月に1~2回は利用したい」37.0%。一方、「ほぼ毎週利用したい」は5.4%にとどまっている。
- 日曜日・祝日の利用については、「利用する必要がない」が69.1%と土曜に比べ高く、「月に1~2回は利用したい」は29.5%とやや低くなっている。
- 土曜などの休日に「月に1~2回は利用したい」理由として、「月に数回仕事が入るため」が77.8%と最も高く、次いで「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」(53.3%)、「息抜きのため」(46.7%)と続いている。
- 長期休暇期間中の保育の事業利用希望は、「月に1~2回は利用したい」82.5%と最も高く、「利用する必要はない」12.0%となっている。
- 利用希望の理由として「月に数回仕事が入るため」が7.6%と最も高く、次いで、「息抜きのため」(4.5%)、「買い物等の用事をまとめて済ませるため」(4.2%)と続いている。
- この1年間に子どもが病気やケガで通常の事業利用ができなかったことがあるか、「なかった」が62.5%、「あった」が37.5%となっている。
- 病児・病後児のための保育施設等の利用意向については、「利用したいとは思わない」が53.4%、「病児・病後児保育施設等を利用したい」が46.6%となっている。
- 私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期的に利用している事業については、「ない」が93.1%。利用がない理由として、「利用する必要がない」が53.8%と最も高く、次いで「利用方法(手続き等)がわからない」(16.0%)、「利用料がかかるまたは高額のため」(12.3%)、「対象者になるのかどうかかわからない」(12.0%)などが挙げられている。

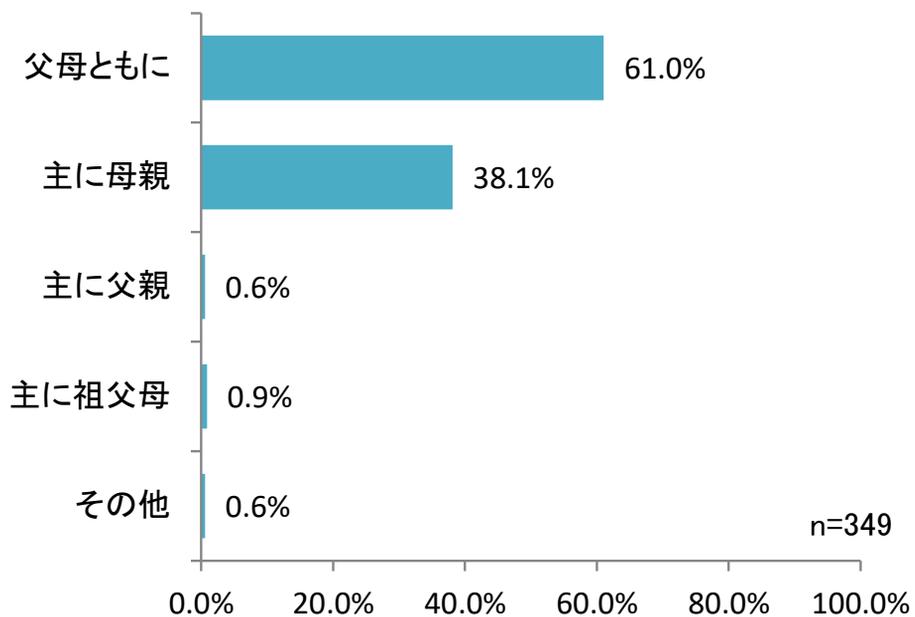
■須坂市に対する子育て環境や支援への満足度

- 須坂市における子育ての環境や支援への満足度については、「普通」が54.7%と最も高く、「満足」および「やや満足」が18.0%、「不満」および「やや不満」が27.3%となっている。

アンケート回答者の割合は「母親」が81.9%、「父親」が17.5%。

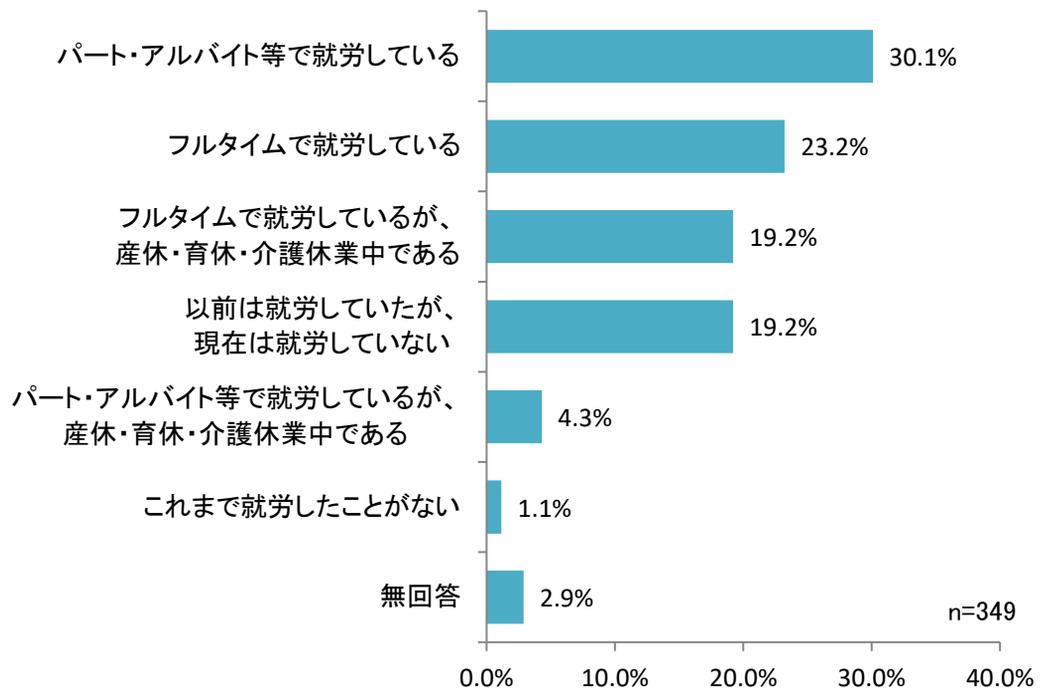


「父母ともに」が61.0%と最も高く、次いで「主に母親」が38.1%となっている。



問 母親の就労状況（自営業、家族従事者含む）

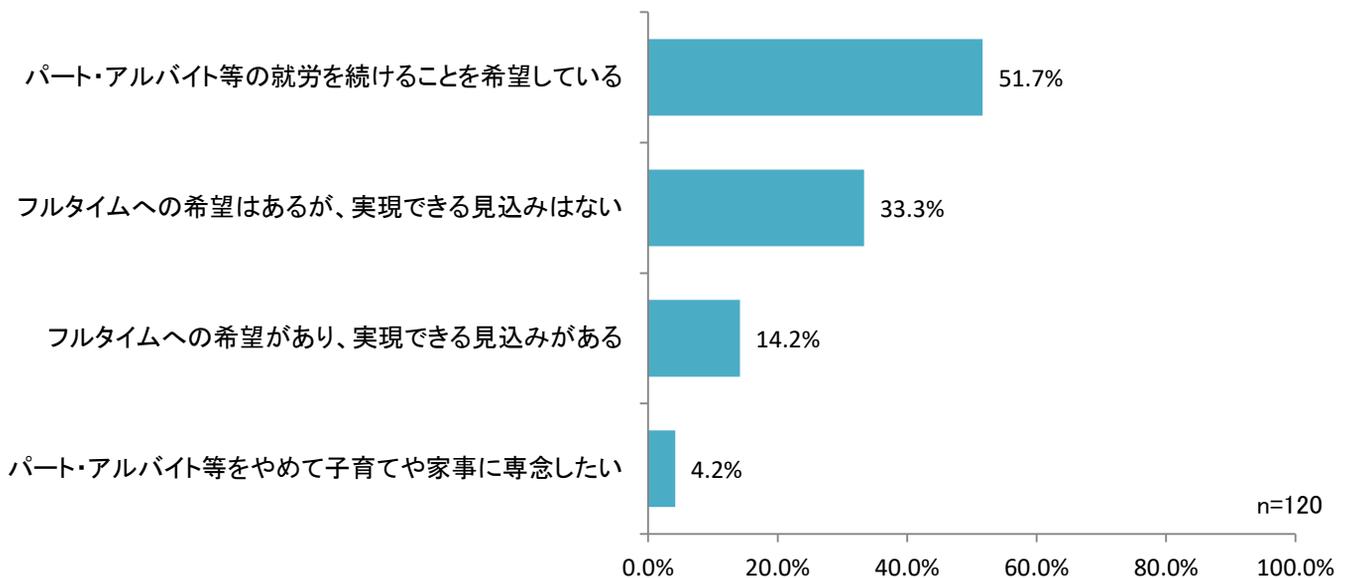
「パート・アルバイト等で就労している」が、30.1%と最も高く、次いで「フルタイムで就労している」が、23.2%。「産休・育休・介護休業中」および「以前は就労していたが、現在は就労していない」が19.2%となっている。



問 フルタイムへの希望の有無

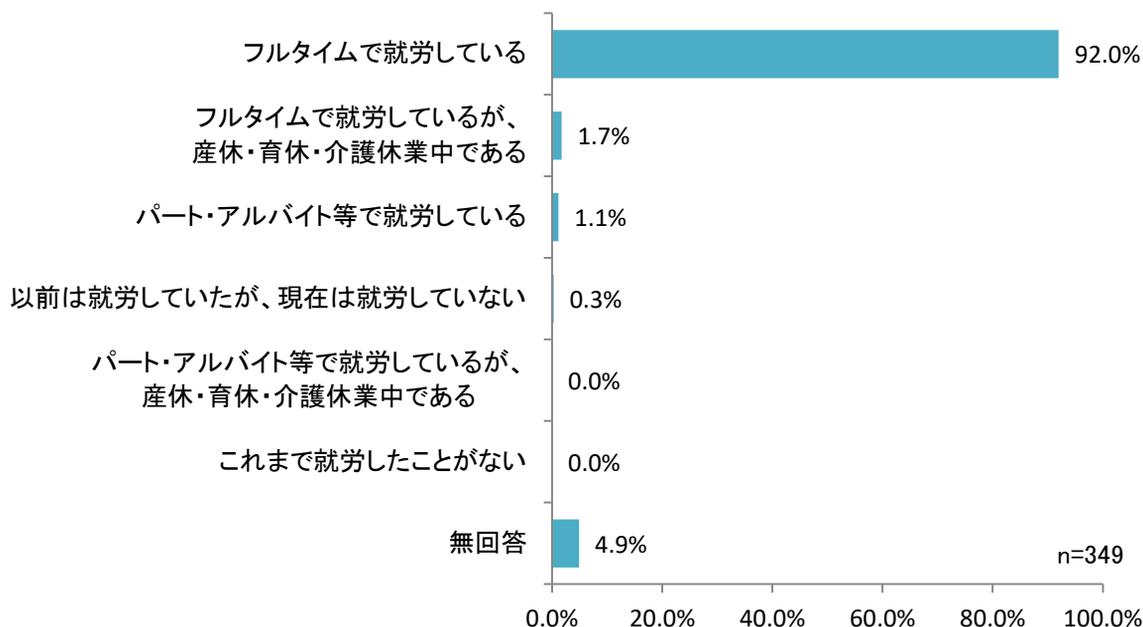
「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望している」が51.7%と最も高く、次いで「フルタイムへの希望はあるが、実現できる見込みはない」が33.3%と続いている。

※（回答者／母親でパート等で働いていると回答された方）



問 父親の方の就労状況（自営業、家族従事者含む）

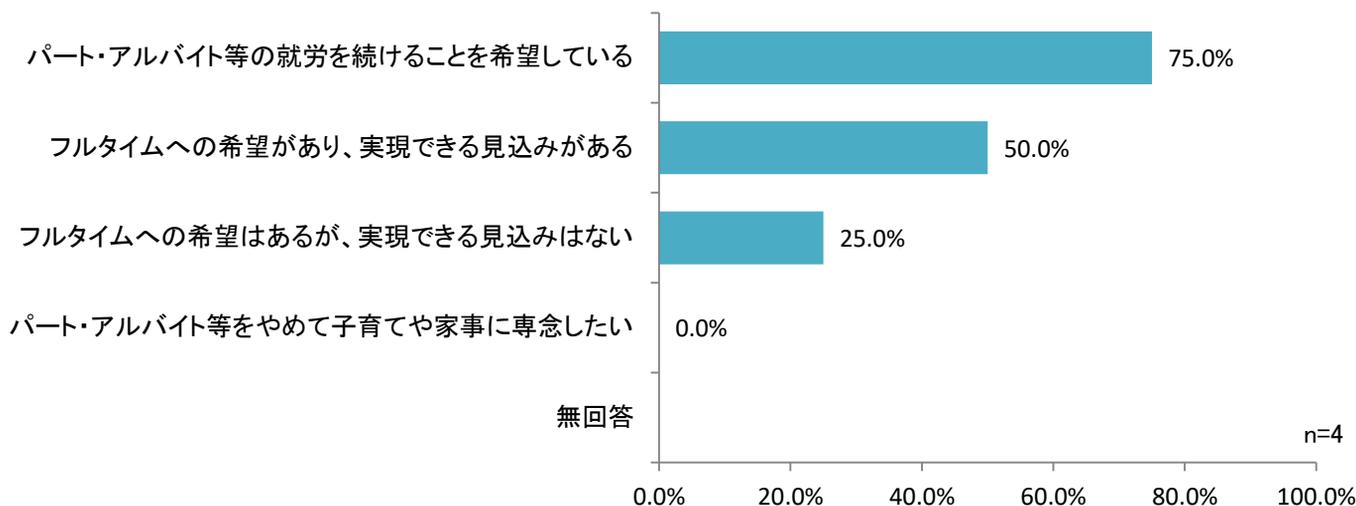
父親の就労状況は、「フルタイムで就労している」（92.0%）が最も割合が高い。



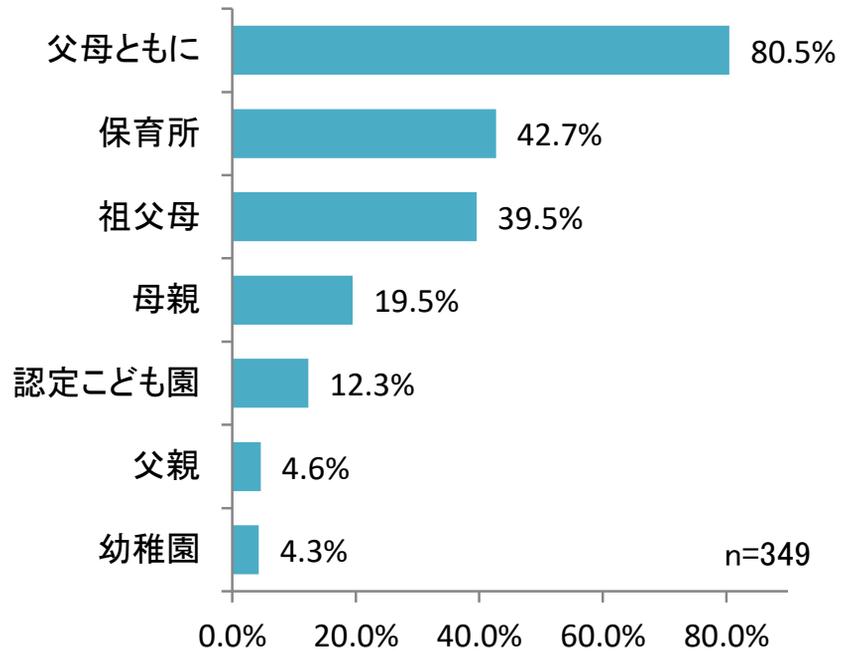
問 フルタイムへの希望

「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望している」が75.0%と最も高く、次いで「フルタイムへの希望はあるが、実現できる見込みはない」が50.0%と続いている。

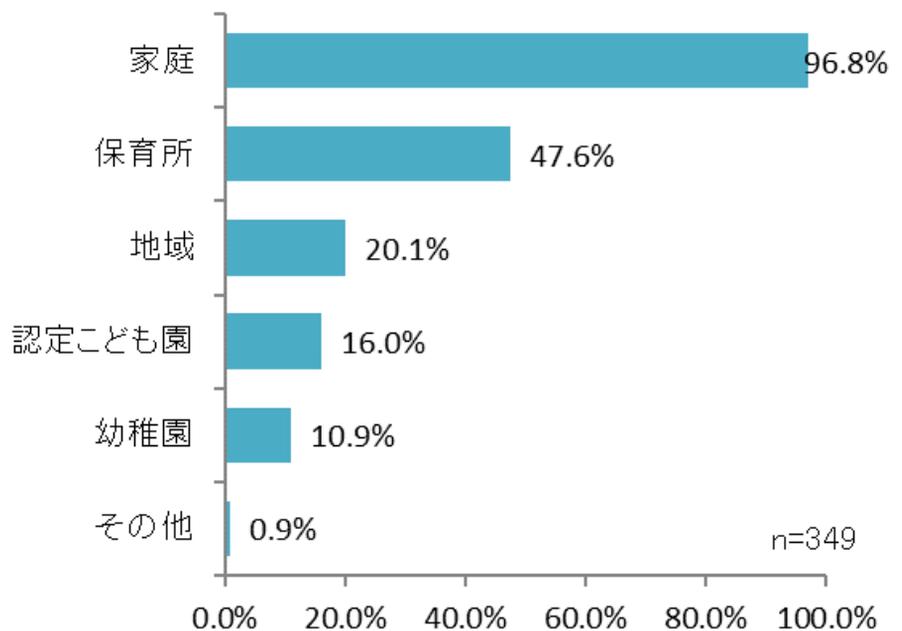
※（回答者／父親でパート等で働いていると回答された方）



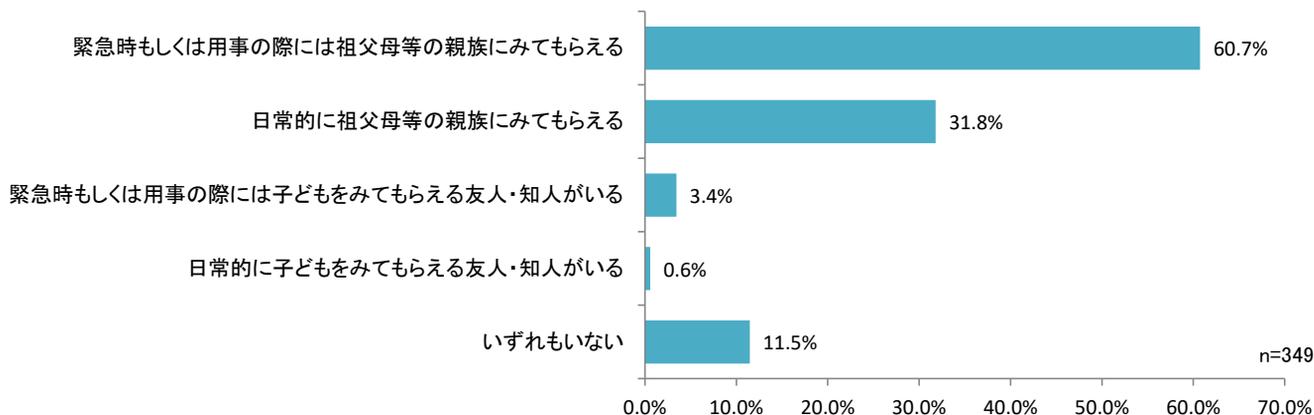
「父母ともに」が80.5%と最も高く、次いで「保育所」（42.7%）、「祖父母」（39.5%）となっている。



子育てに、もっとも影響すると思う環境は「家庭」が96.8%と最も高く、「保育所」は47.6%と続いている。

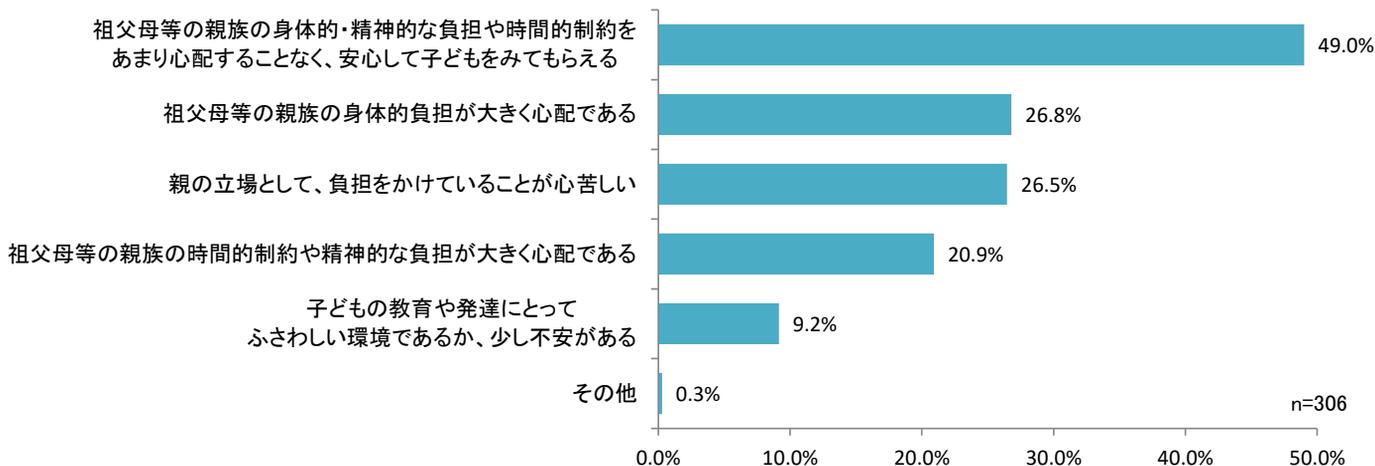


「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が60.7%と最も高く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」31.8%となっている。「いずれもない」は11.5%の回答がみられた。



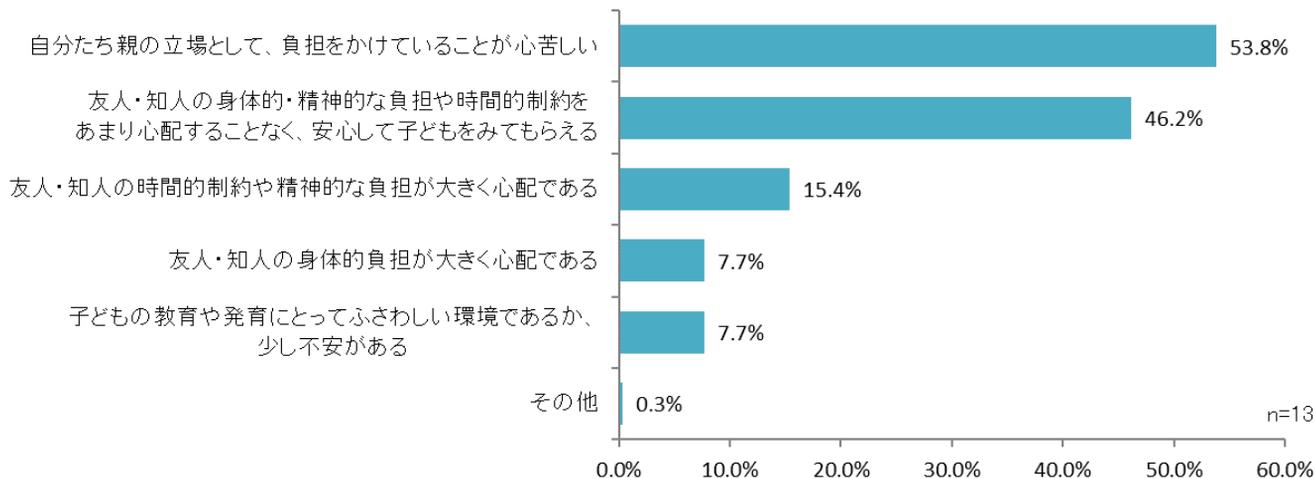
「祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約をあまり心配することなく、安心して子どもを見てもらえる」49.0%と最も高い。

※（回答者／「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」のいずれか回答した方

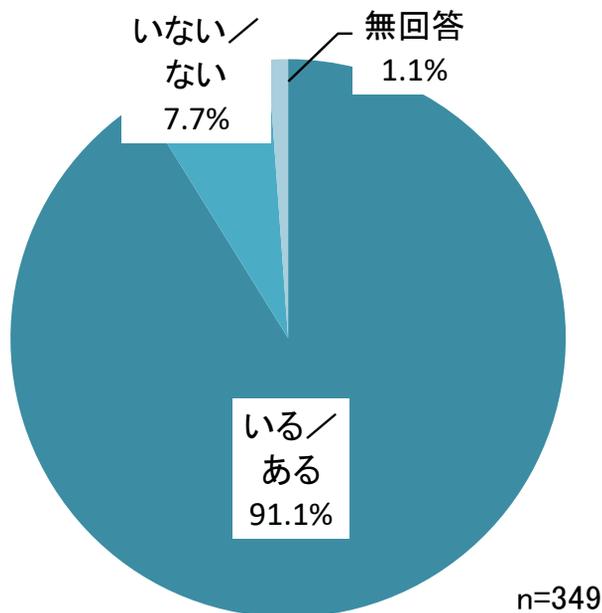


「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」が53.8%と最も高く、次いで「友人・知人の身体的・精神的な負担や時間的制約をあまり心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」46.2%となっている。

※回答者／「日常的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる」、「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」のいずれか回答した方



子育てをする上で、気軽に相談できる人や場所について、91.1%が「いる／ある」と回答している。



※（回答者／「子育てをする上で、気軽に相談できる人または場所が「いない・ない」と回答した方

■ 主な自由意見

一 相談できる場について 一

- 以前、祖父母へ頼ることができなかったシングルマザーの身でみると、気軽に利用できるベビーシッターさんや日常の育児のサポートや相談が気軽にできる、施設や人達がいてくれたらと感じていました。
- 公的機関に相談する時、自分の性格として、実際のところ結構子育てに困っていても、大変ですよねえ、と言われるばかりで具体的な解決策案もなく、「でもまあ頑張ります」とこちらが言うしかない雰囲気になってしまう。上の子にがおり、同時に乳児を含む3人の子育て。身近に子守りを気軽に頼める人もいなく、1人で3人障がいを見ているとき、時に頭がおかしくなりそうです。辛いです。事前にウェブ上などに文書で状況を深刻に書いて先方に伝えた上で、相談できたらありがたいです。
- 気軽に相談できる場所。
- 気軽に予約なく相談できる場所。
- 体調悪くて不安な子どもを知らないところに預けるのは気がひけるのですがそういうのは誰に相談したらしいかわからないです。
- 育児に悩んでいる時、保育園に相談したが、先生は忙しいだろうし申し訳ない気持ちもあった。吐き出せる場所があるといい。
- こどもの発育や健康状態について時間の制約が少なく、専門の知識をもった第三者の存在。小児科やこども園では先生方がとても忙しく、緊急性のない相談ができる雰囲気ではないので、少し不安だという程度の将来を見据えた相談ができる場がない。例えば小児科での診療は問診時間も短く機械的で将来的に深刻な病気が見つかるといった可能性について考慮してくれているのか疑問に思う。かかりつけ医の存在意義がはたされていない。

一 経済的なサポートについて 一

- 産前産後は車を運転出来ないことから、タクシーの利用補助等のサービスがあるととても助かる。乗り合いタクシーは乗り場や時間が限られており使い勝手が悪い。
- 子どもの学校行事等で母は、仕事を休む機会が多く、有休が無くなってしまい、収入に影響する場合がある。病院の無償化、給食費の補助を考えて欲しい。3歳まで今までは高額な保育料を取られていて、今後は無償化になるとの事、やる事が遅い。
- 非課税世帯以外(働く世帯)にも金銭面(補助金や支援金、育休復帰後の保育料の減額)の手厚いサポートをお願いいたします！
- 今保育園に預けて働いているが、月に7日は子どもの体調で休んでしまう。そういう事を理解してくれる職場は少ない。だったら親のどちらかが子育てに集中出来るよう、働きに出ている親の給料が上がればいいのと思う。
- ファミリーサポートの金額を下げ利用しやすくしてほしい。

一 子どもの遊び場について 一

- 休日に子どもが遊べる場所が欲しい。室内。
- 子どもが自由に遊べる施設があると嬉しいです。特に天気の悪い日、雨の降った次の日などは外で遊べず、駅前のbotaは人数制限がある為、遊ぶ場所の選択肢が少なく困る日があります。新しく出来る須坂インターにそういった施設が出来るといいなと期待しています。
- 土日祝日で子育て支援施設botaが利用できるようにしていただきたい。
- 整備が整った子どもたちが集まる公園。

※（回答者／「子育てをする上で、気軽に相談できる人または場所が「いない・ない」と回答した方

■ 主な自由意見

ー 一時保育 ー

- ・ 一時預かりを半日単位でなく、時間単位でもっと気軽に預けられる場所が欲しい。
- ・ 1時間単位で、気軽に1日預かりが利用できる施設がほしい。
- ・ 無料で夜8時か9時くらいまで見てくれる場所、土曜日のことが多いので就労証明書なしで預かってくれる場所。
- ・ 旦那の会社の休みが取れず、わたしに負担がかかっている。日曜日や土曜日にも気楽に預けられる場所が欲しい。

ー 病児保育 ー

- ・ 熱があっても、何日目からは見てくれる場所が欲しい。
- ・ 急な体調不良の時見てくれる所はどこで探すのか分からないので知りたいし気軽に使えるのか、体調はどのような状態で使えるのかよく分からないので知りたい。
- ・ 病気が治ってきている時に自宅療養中もみてくれる場所、人がいてくれると助かります。

ー 各種情報 ー

- ・ 何を購入すればよいか迷うため、大手メーカーの物や搾乳機等の物販が実際に試せる場所。
- ・ 手の届く情報提供。

ー 子育て支援センター ー

- ・ 子育て支援センターに行きにくい。予約制だったり、すでにグループが出来ていたり。
- ・ 子育て支援センターが日曜、祝日にも利用できるといい。
- ・ 子どもが夜間授乳や、夜泣きをする時期、日中に少しでも眠りたかったが、誰にも子どもを見てもらう事が出来なかったなので、気軽に3時間くらい預けて仮眠できる施設があれば嬉しい。

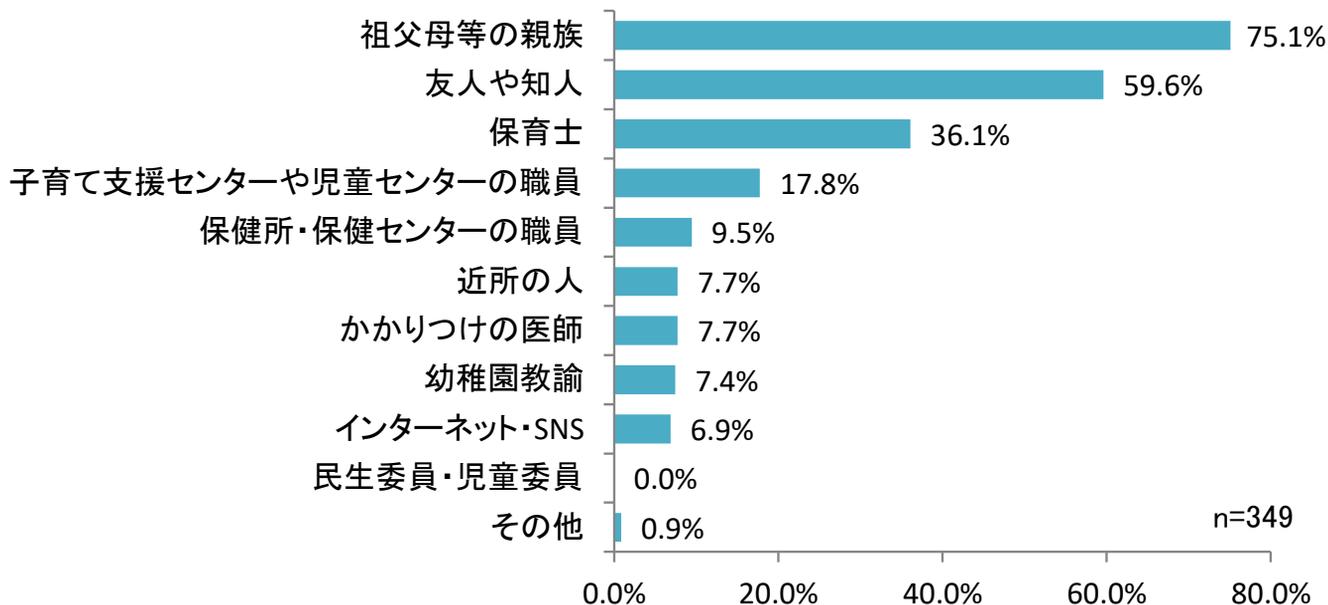
ー その他 ー

- ・ 地域コミュニティ、例えば公会堂などをオープンにして、地域高齢者の方々の協力を得、気軽に子どもたちをみてもらえる、知ってもらえる、いつでも困ったら行けるそんな活用があればなと思います。
- ・ 産前産後を理由とする、保育園へ入所できる期間が短すぎると思います。私自身、産前産後は女性ホルモンの影響もあったのか、気持ちや、感情の変化がとても激しい時期でとても辛かったです。日中、上の子は園に通っていましたが、産後3ヶ月で退園となり、心も体も本当に辛かったです。産後1年間は、1番助けて欲しい期間だと実感しました。これから出産されるお母さん達の為に、新たなる制度になるように強く求めたいと思います。
- ・ 移住者の子育て支援。
- ・ 医師によるカウンセリング。
- ・ 子どもと接する時間が貴重です。時間を削られる行事毎の強制参加が大きな負担。
- ・ 保育所や小学校などの職員さんの待遇改善を希望。
- ・ 他の都道府県に問い合わせたほうがいい。
- ・ 父子でも格安で住める場所(極力祖父母に負担かけないよう自分である程度やっていくため)。
- ・ 医療体制。

問

相談先としてあてはまるものすべてを選択してください。

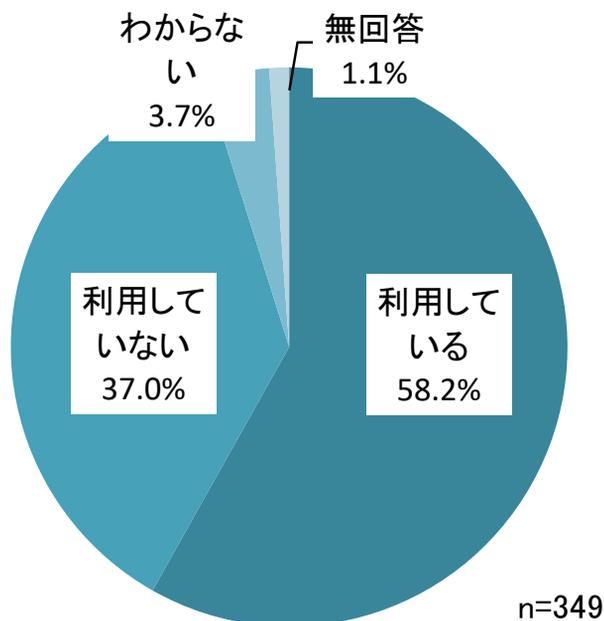
「祖父母等の親族」が75.1%最も高い。次いで、「友人・知人」59.6%、「保育士」36.1%と続いている。



問

現在、「定期的な教育・保育の事業」を利用の有無

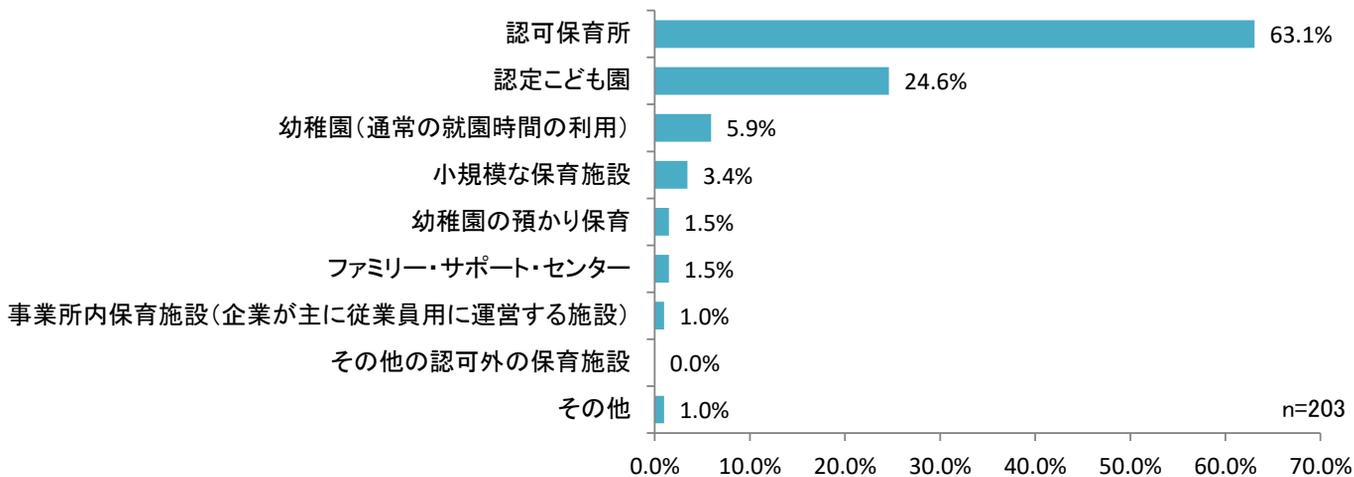
「利用している」が58.2%、「利用していない」が37.0%。



問 平日に利用している教育・保育の事業について

「認可保育所」の利用が63.1%は高く、次いで「認定こども園」が24.6%となっている。

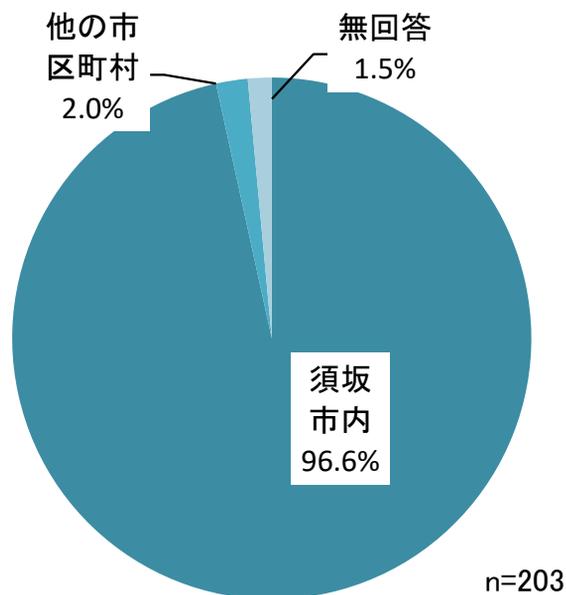
※回答者／「定期的な教育・保育の事業」を利用していると回答した方



問 現在、利用している教育・保育事業の実施場所について

回答者全体では、96.6%が「須坂市内」と回答している。

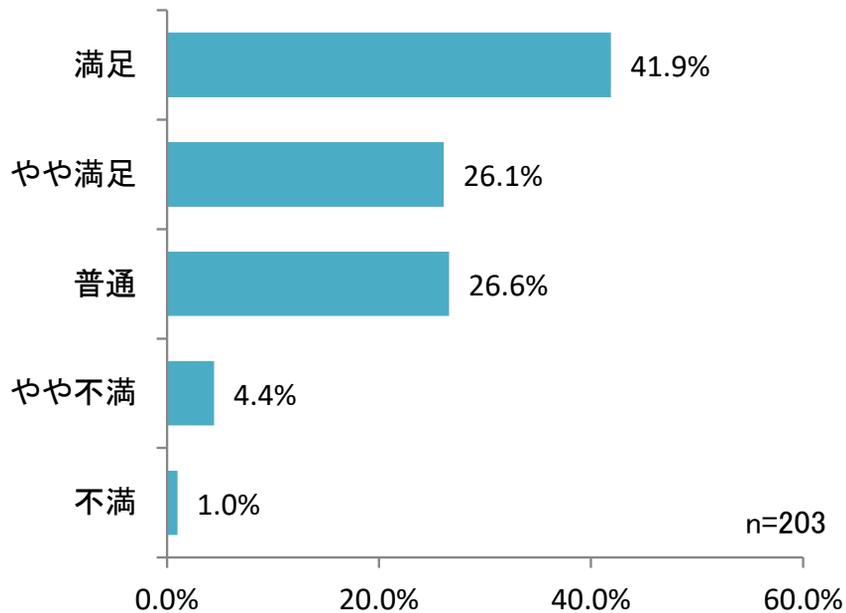
※回答者／「定期的な教育・保育の事業」を利用していると回答した方



問 現在、利用している教育・保育事業への満足度

「満足」および「やや満足」を合算すると68%となっている。一方、「不満」および「やや不満」は5.4%となっている。

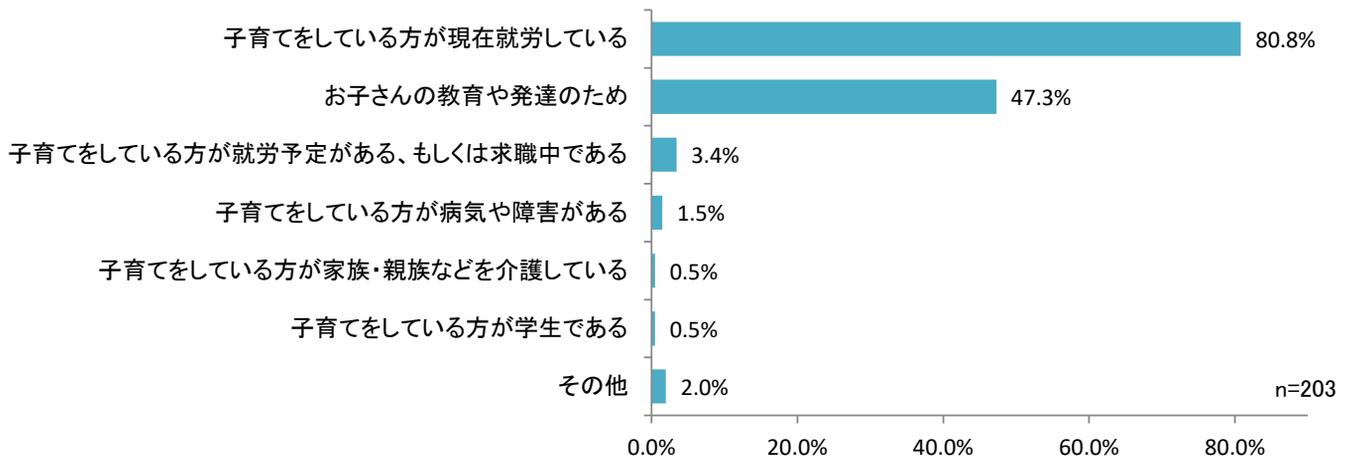
※回答者／「定期的な教育・保育の事業」を利用していると回答した方



問 平日に定期的に教育・保育の事業を利用している理由

「子育てをしている方が現在就労している」が80.8%と最も高く、次いで「お子さんの教育や発達のため」が47.3%となっている。

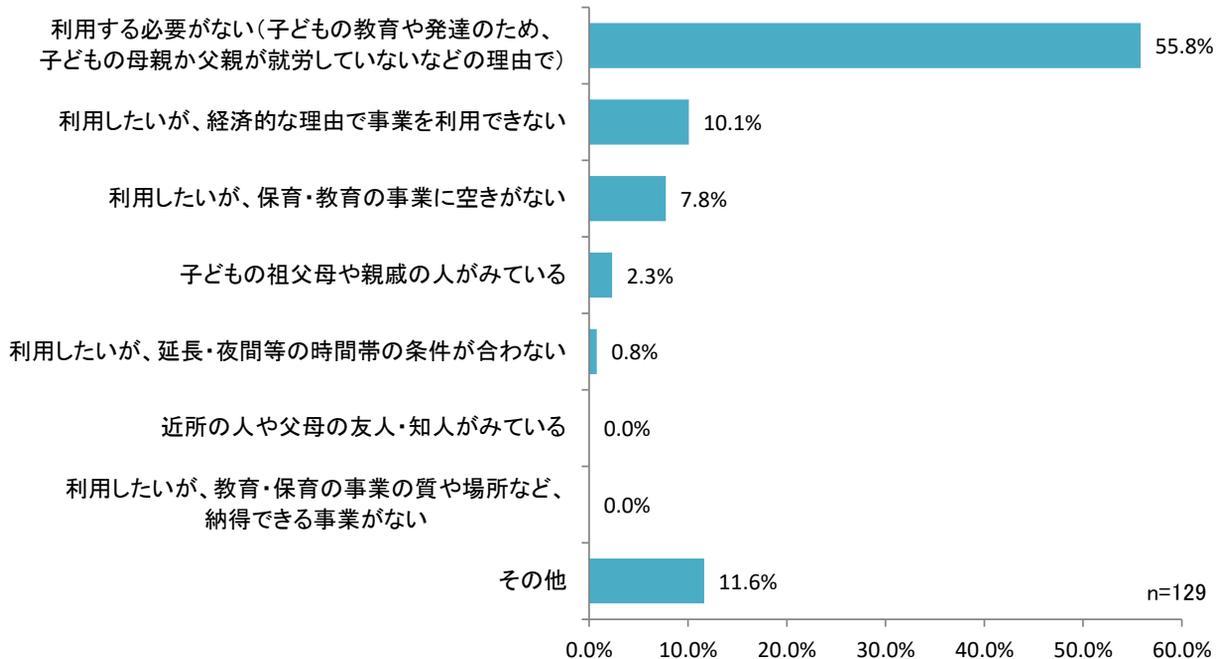
※回答者／「定期的な教育・保育の事業」を利用していると回答した方



問 現在、教育・保育事業を利用していない理由

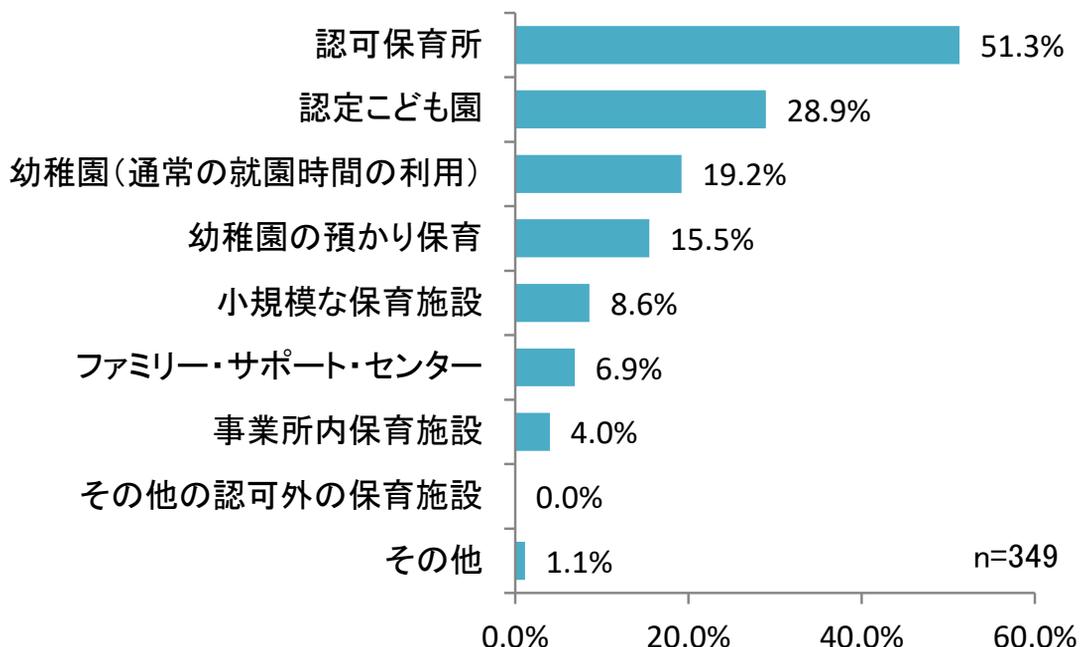
「利用する必要がない（子どもの教育や発達のため、子どもの母親か父親が就労していないなどの理由で）」が55.8%と最も高く、「利用したいが、経済的な理由で事業を利用できない」10.1%となっている。

※回答者／「定期的な教育・保育の事業」を利用していないと回答した方

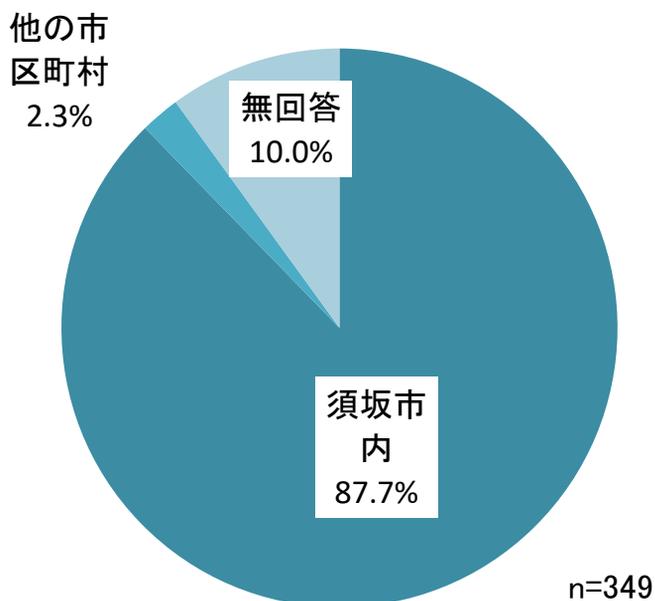


問 平日の教育・保育の事業として、「定期的に」利用したいと考える事業

「認可保育所」が51.3%と最も高く、次いで「認定こども園」28.9%、「幼稚園（通常の就園時間の利用）」19.2%、「幼稚園の預かり保育」15.5%と続いている。

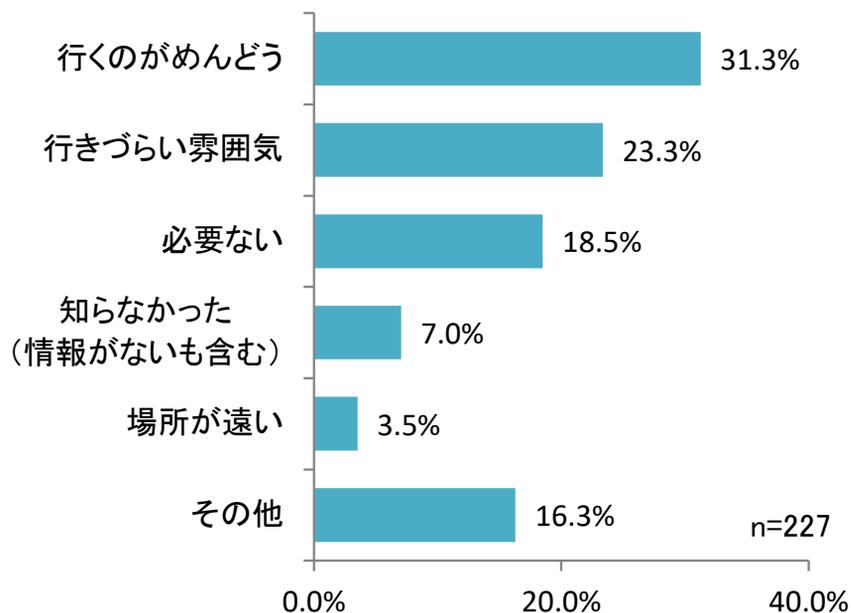


「須坂市内」が87.7%、「他の市区町村」が2.3%となっている。



「行くのがめんどろ」31.3%が最も高く、次いで「行きづらい雰囲気」23.3%、「必要ない」18.5%となっている。

※回答者/地域の子育て支援事業を利用したことがない方

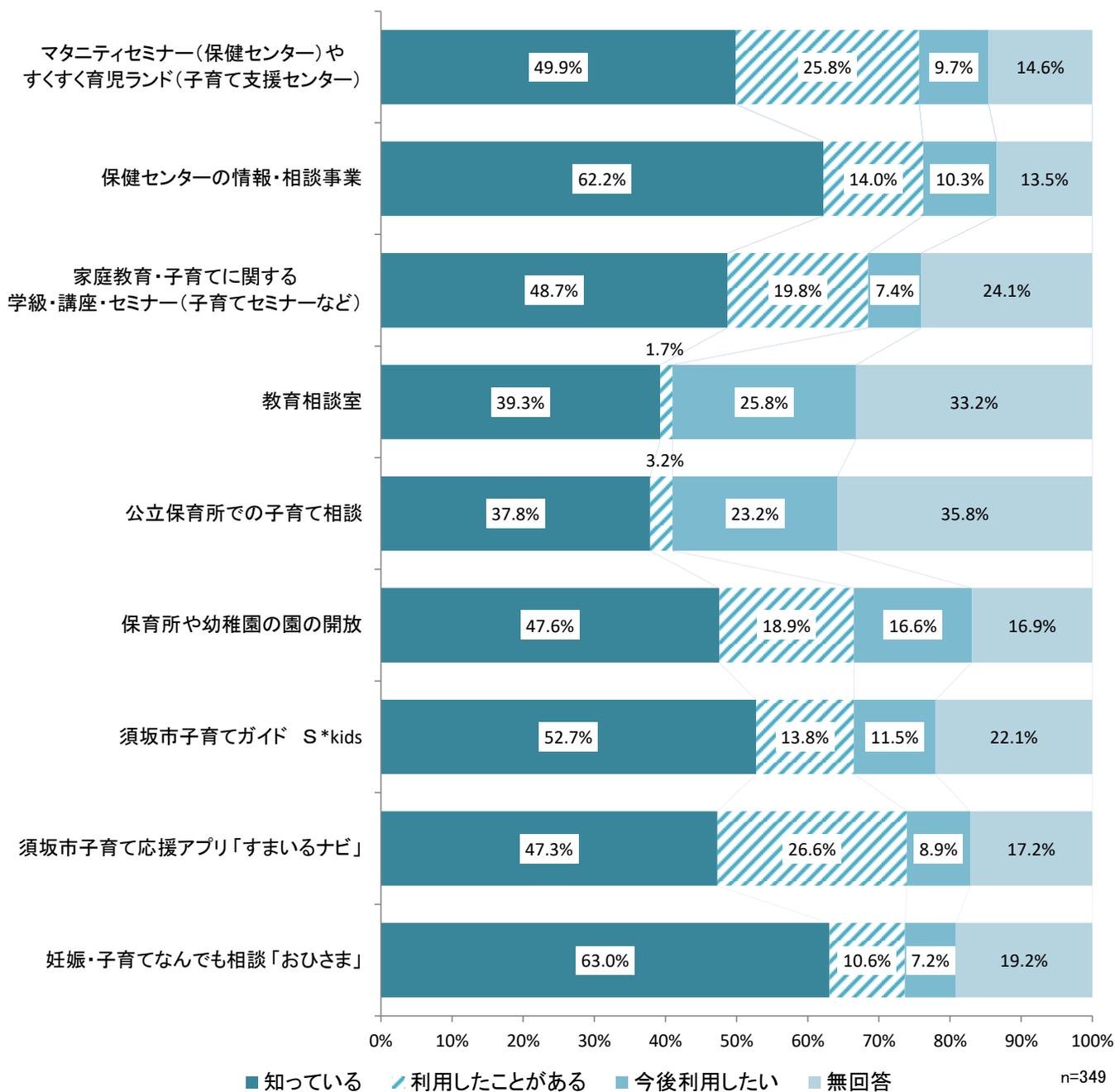


問 現在実施している子育て事業の利用状況について

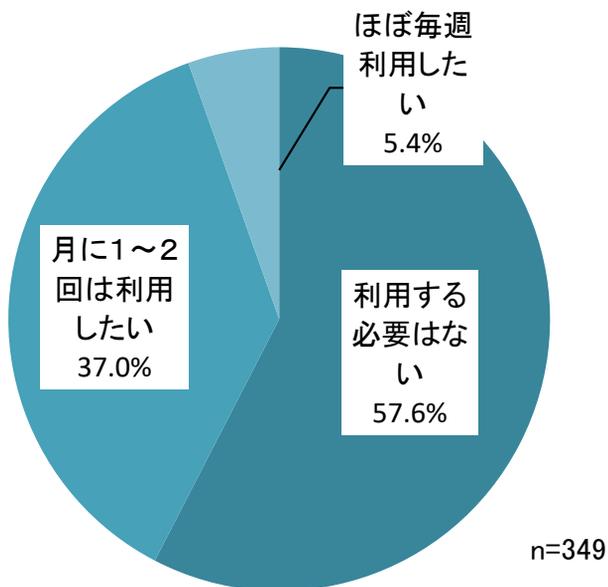
「保健センターの情報・相談事業」や「妊娠・子育てなんでも相談「おひさま」」は6割を超える方が「知っている」と回答している。

一方、利用状況については、「マタニティセミナー（保健センター）やすくすく育児ランド（子育て支援センター）」や「須坂市子育て応援アプリ「すまいるナビ」」が25%を超える方が「利用したことがある」と回答している。

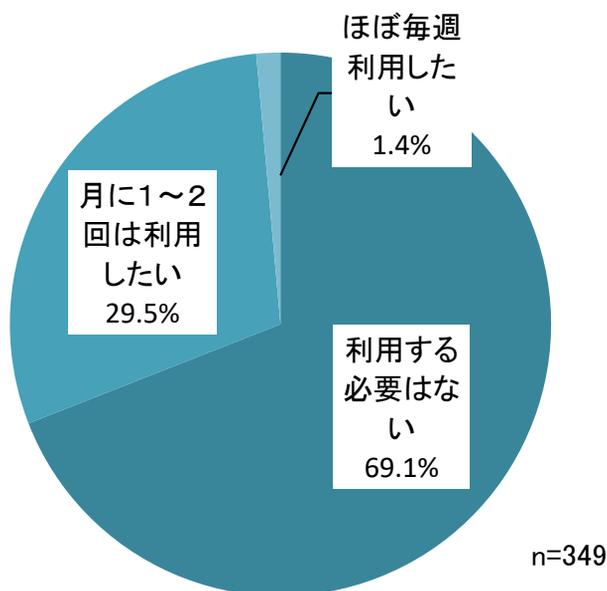
また、「今後利用したい」子育て事業として、「教育相談室」（25.8%）や「公立保育所での子育て相談」（23.2%）が挙げられている。



「利用する必要はない」が57.6%と最も高く、「月に1~2回は利用したい」は37.0%となっている。一方、「ほぼ毎週利用したい」は5.4%にとどまっている。

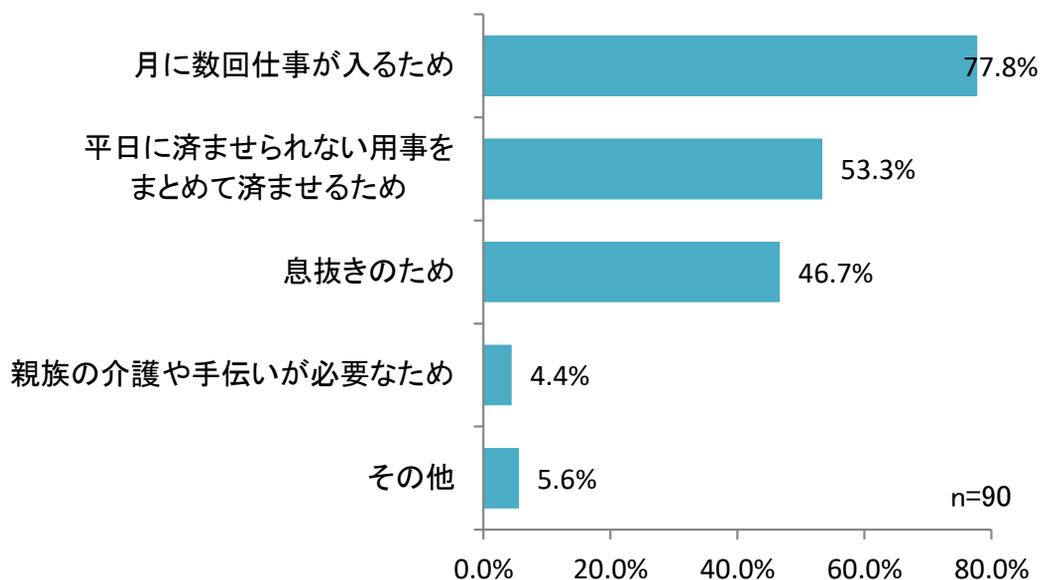


「利用する必要がない」69.1%と最も高く、「月に1～2回は利用したい」が29.5%となっている。一方、「ほぼ毎週利用したい」は1.4%にとどまっている。

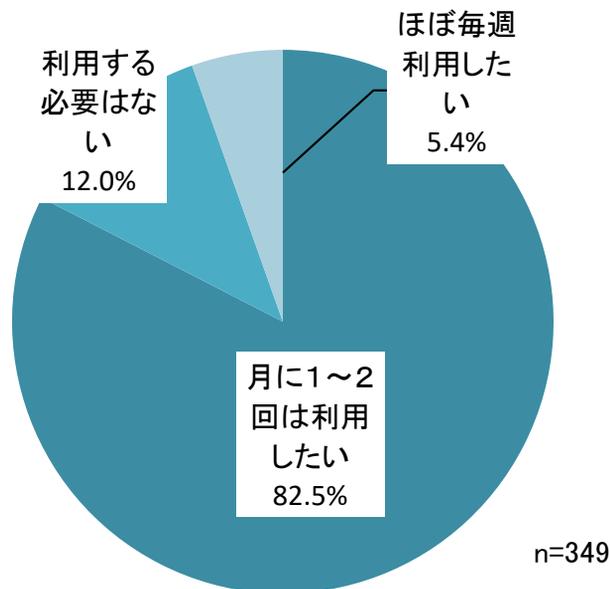


「月に数回仕事が入るため」が77.8%と最も高い。次いで、「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」53.3%、「息抜きのため」46.7%と続いている。

※回答者／土曜日・日曜日・祝日で「月に1～2回は利用したい」と回答した人

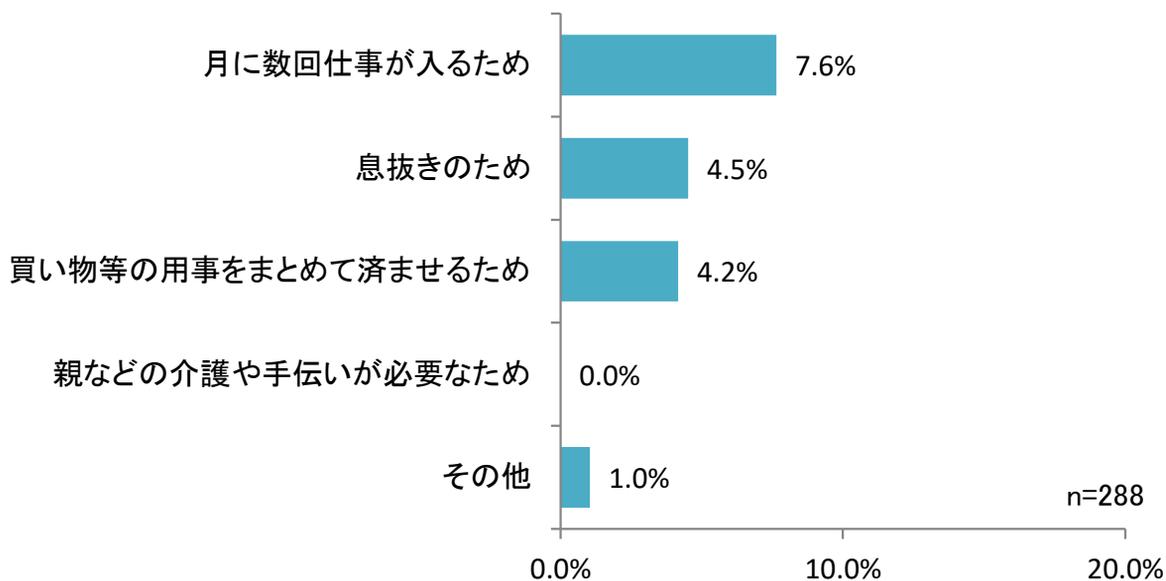


「月に1~2回は利用したい」82.5%と最も高く、「利用する必要はない」12.0%となっている。

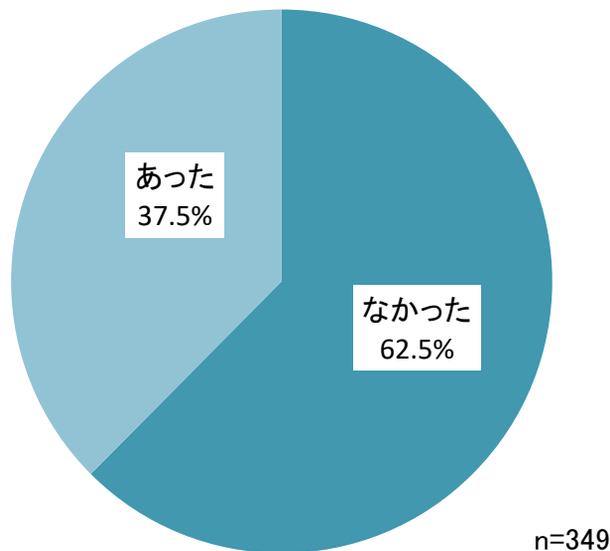


利用希望の理由として「月に数回仕事が入るため」が7.6%と最も高く、次いで、「息抜きのため」4.5%、「買い物等の用事をまとめて済ませるため」4.2%と続いている。

※回答者／「夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中に月に1~2回は利用したい」と回答した人

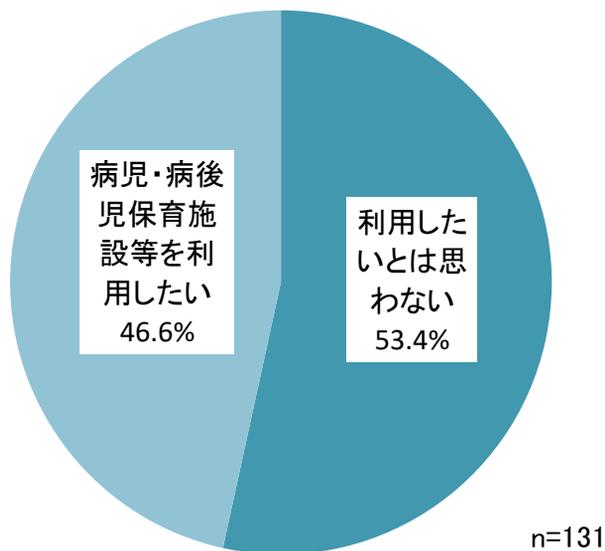


「なかった」が62.5%、「あった」が37.5%となっている。

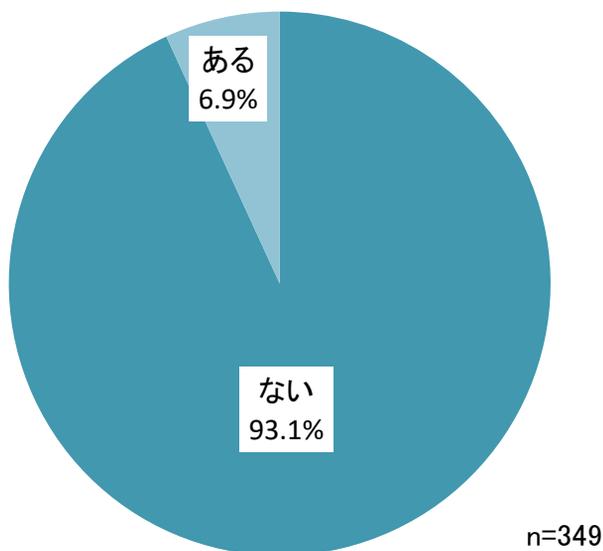


「利用したいとは思わない」が53.4%、「病児・病後児保育施設等を利用したい」が46.6%となっている。

※回答者／「この1年間に、子どもが病気やケガで通常の事業が利用できなかったことがあった」と回答した方

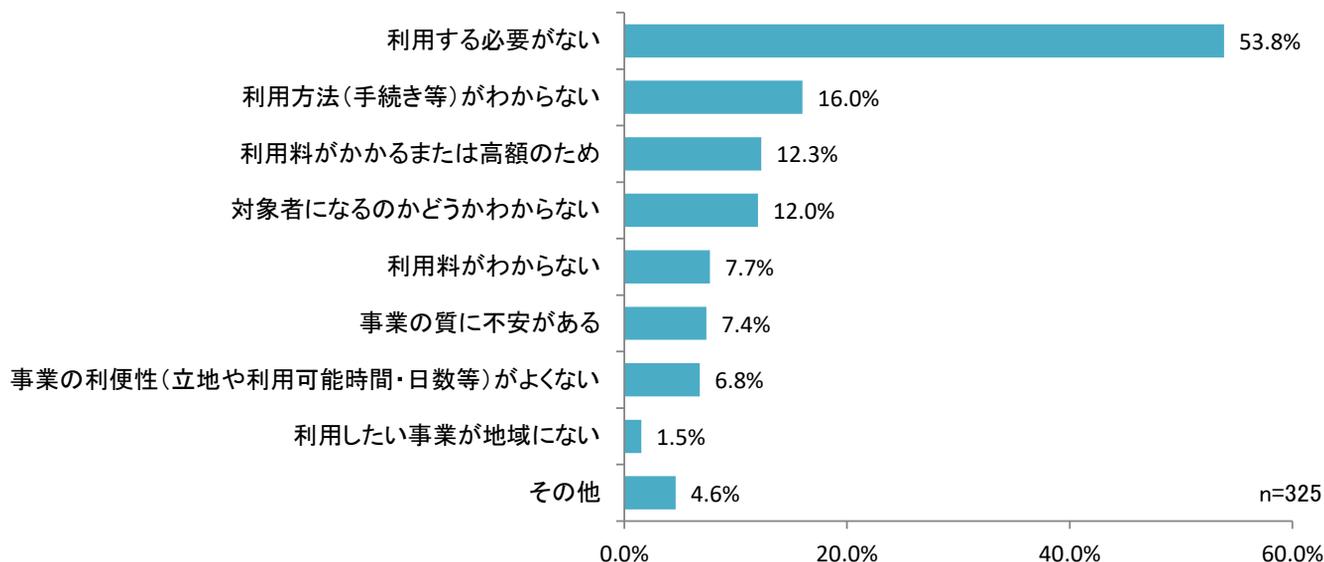


「ない」が93.1%となっている。

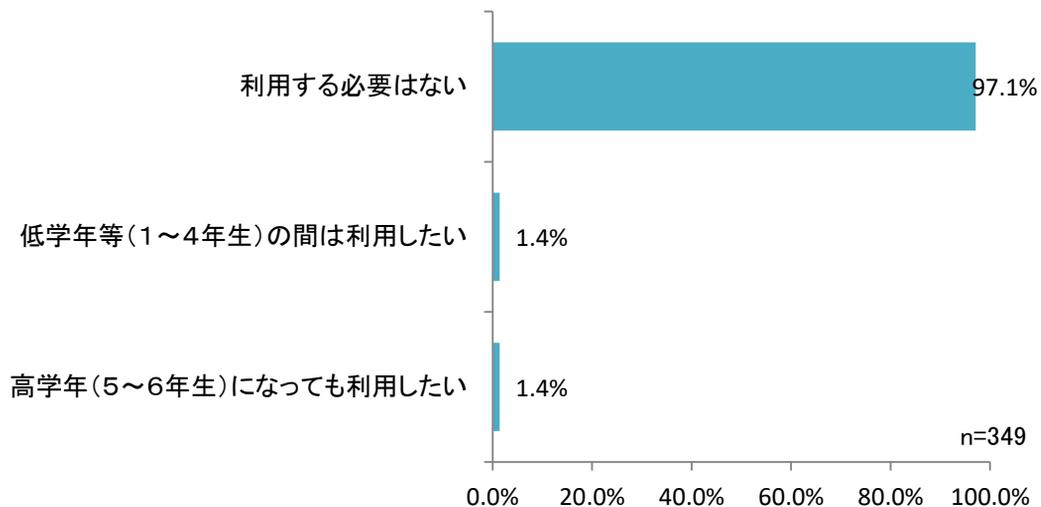


「利用する必要がない」が53.8%と最も高く、次いで「利用方法（手続き等）がわからない」16.0%、「利用料がかかるまたは高額のため」12.3%となっている。

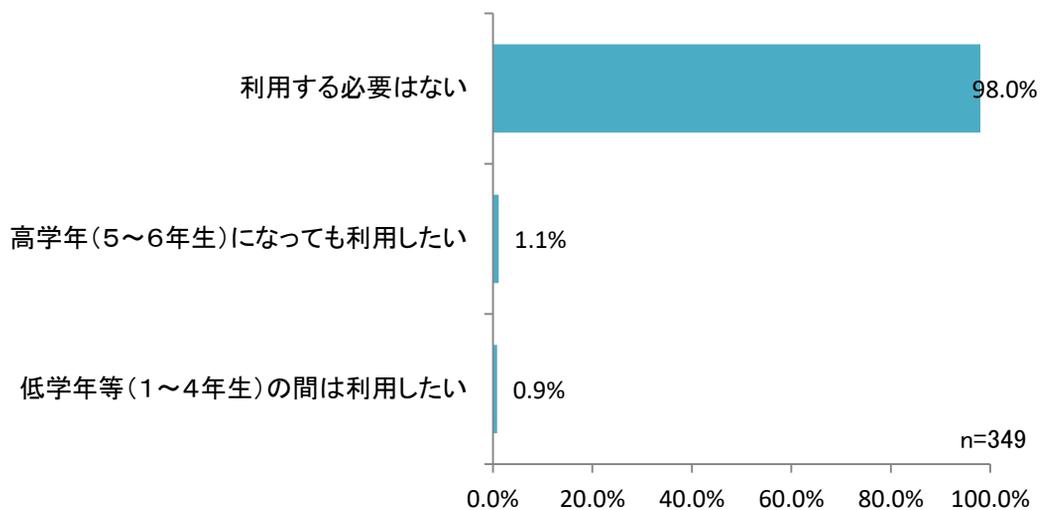
※回答者／「私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用している事業がない」と回答した方



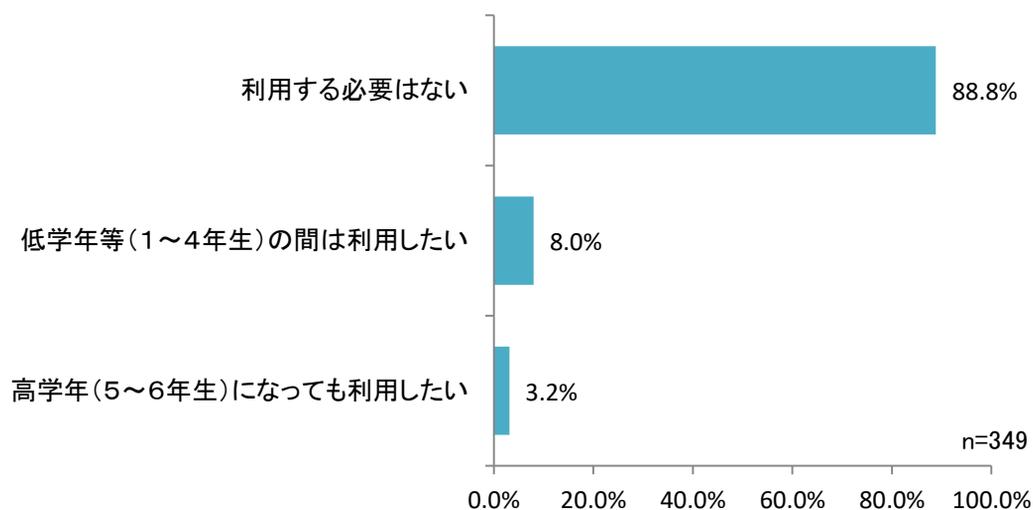
「利用する必要はない」が97.1%となっている。



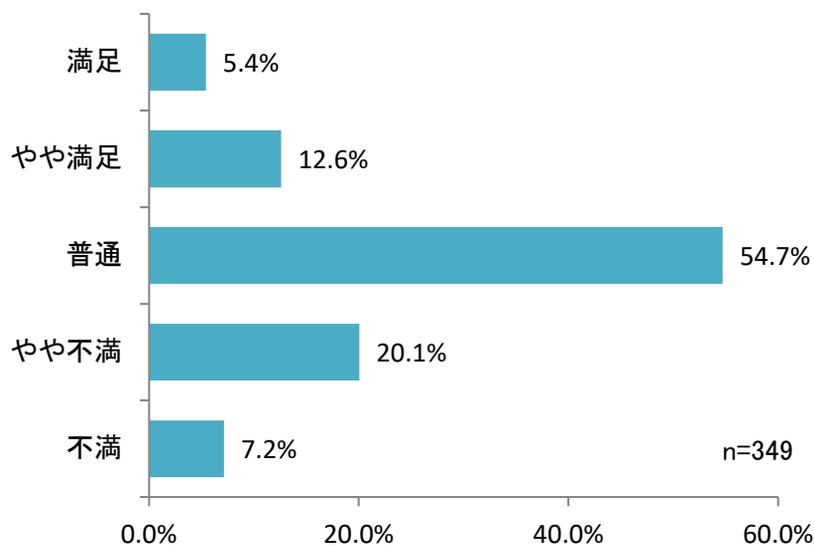
「利用する必要はない」が98.0%となっている。



「利用する必要はない」が88.8%と最も高い。



「普通」が54.7%と最も高く、「満足」および「やや満足」が18.0%、「不満」および「やや不満」が27.3%となっている。

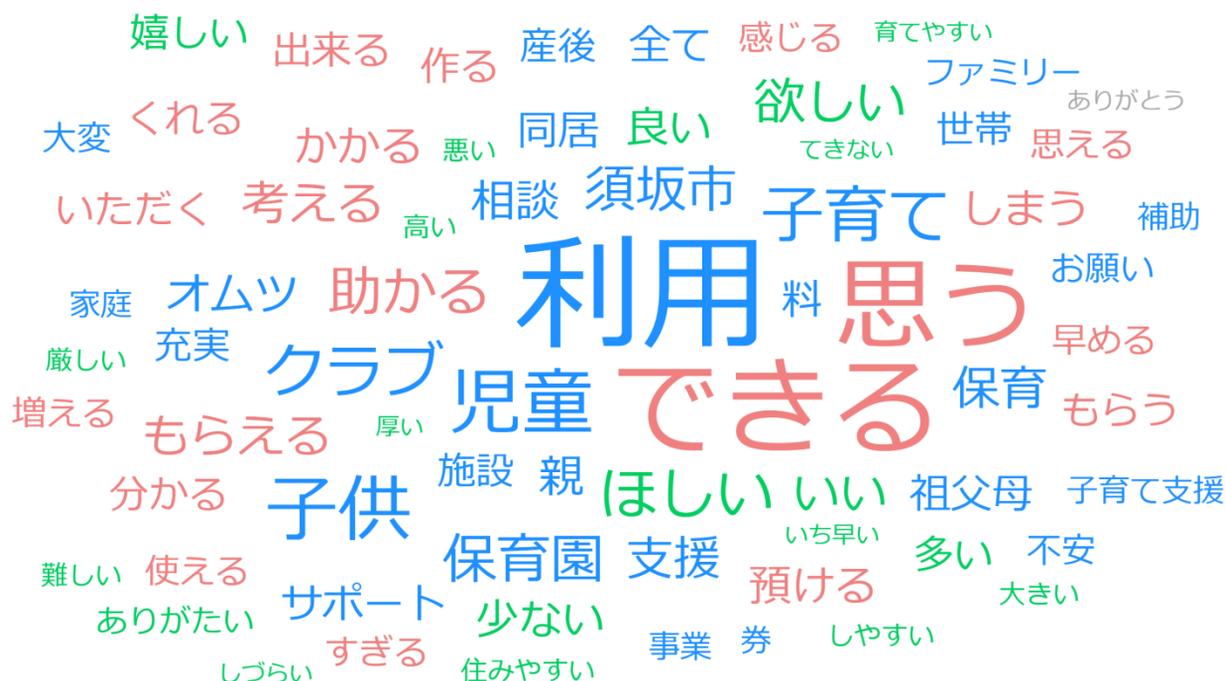


■ 主な自由意見

一 子育て支援サービス 一

- ・ 病児病後保育の利用をしたいが、登録したり手続きが大変なので、もう少し簡単にしてほしい。
- ・ ファミサポの利用について、市から助成をいただきたい。実際の利用時間に加えて、移動時間分の利用料もお支払いしなければならないので、気軽には利用できない。
- ・ 子育てパスポートを使える施設を増やしてほしい。「持ってて助かった、特をした」と思えるほどカードが活躍する時が少ない。
- ・ ファミリー・サポートを利用する際の説明で、利用会員に対して提供会員が少なく、なかなか需要と供給がマッチしていないとお話がありました。身近に頼れる親族等がない環境で、ファミリーサポートを利用したい時に、提供会員さんがおらず利用できないのは大変だなと思いましたので、そこのサポートを厚くしていただいたら、嬉しいです。
- ・ 出産後に預かり保育が利用できるお試しチケット等を配布すると、もっと気軽に預けてもいいかなと思えたかもしれません。
- ・ 赤ちゃん訪問で助産師さんがとても親身になって相談にのってくれたり、話をしてくれたりとても安心できました。不安なことが多い中、とても助かり心が軽くなりました。地域にも頼れる人たちがいることのありがたみを感じています。産後間もないので分からないことだらけですが、利用できることはたくさん利用させて頂きたいと思っています。
- ・ そもそも手当が少ないのに保育料や支払いが大きいので1人育てるに精一杯で2人目はとてもじゃないが考えられない。育てやすく住みやすい市ではあるが、金銭面で見た時にまったくいいとは思えないので、もう少し子育て世帯への手当や保育料を見直して欲しい。この問題は須崎市だけではないですが、このままでは少子化が進むだけだと思います。
- ・ オムツの購入時の補助券があるとありがたいです。
- ・ 役所とかに相談に行くとなると仕事してたら無理だからメールやLINEで気軽に相談できるようにして欲しい。
- ・ 多子世帯への支援制度をもう少し充実させてほしい。日用品代、保育料などの助成。須崎市は子どもが生まれた時に、ごみ袋を頂きましたが、とても足りなかったです。オムツ購入費もかなりかかり、補助的なものがあれば金銭的に助かります。

■ 主な自由意見をAIテキストマイニングでビジュアル化

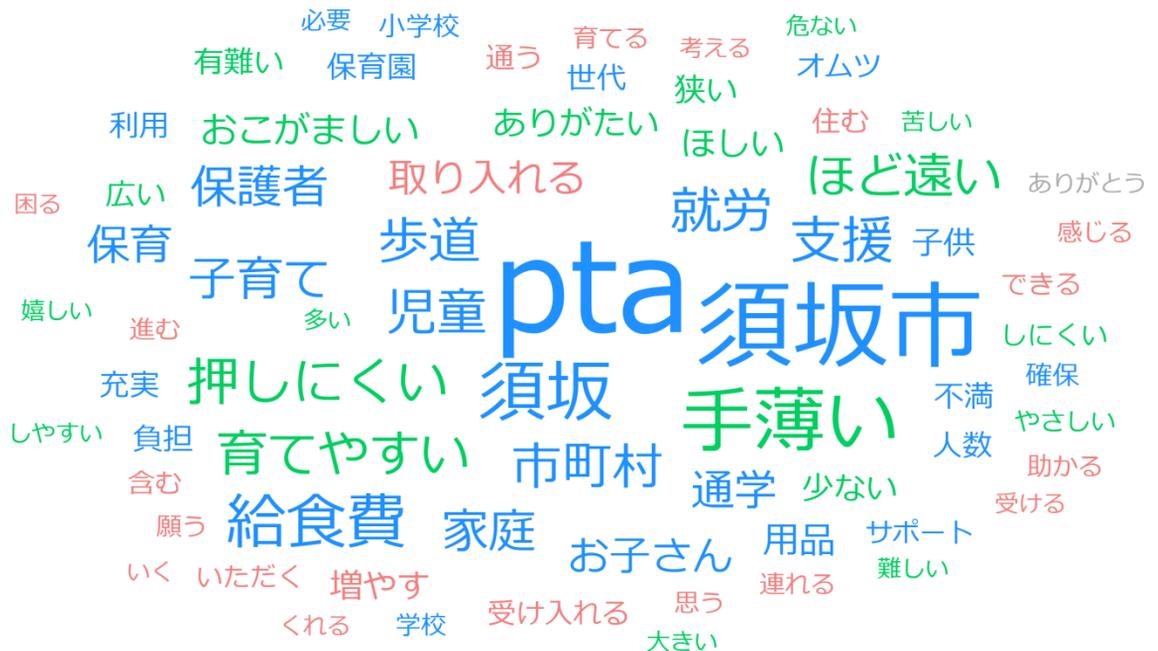


■ 主な自由意見

一 子育てを取り巻く環境 一

- 子ども用品等の購入できる場所がない。薬局では買えるものが限られるため。
- 大型商業施設が早く完成するとさらに子育て世代には助かると思います。
- 歩道が狭く街灯が少ない場所があるため、子の安全のために解消していただきたいです。
- ほとんどの家庭が両親就労している今、少子化に伴いPTAやこども会の役員も1人につき2回はやらなければならないようになっていて、本当に苦痛です。自治会でも高齢化が進み、子育て世代が役員やらされたりするので。子どもが楽しめるようなイベントなどは市でもたくさん開催してくれていて有難いので、学校側も親の負担をなくしていくようにしてほしい。PTAが任意でも授業にこども会が入っていると退会しにくいです。
- 土日に仕事をしているので、たまには平日の子育てイベントがあるとうれしいです。
- 働く親が交流できる機会があると嬉しいです。
- 定期的な子育て支援金の給付がとてもありがたいです。
- 児童センターをもっと快適な場所にしてほしいです。
- 多子家庭はホントに大変です。少子化の世の中になる根本的な事をしっかり考えてほしい。
- 給食費無償化にしてほしいです。又は値上げ分を継続して補助してほしい。
- 児童発達支援センターを増やしていただきたいこと、インクルーシブ教育的要素を義務教育の場に取り入れていただきたい、という2点です。色々な方がいらっしゃる、ニーズもそれぞれ。難しい問題は山積していると思われませんが、誰一人取り残さない社会の実現のため、環境改善が進むようお願いしておりますし、何かご協力できることがございましたらお声がけいただきたいです。
- 障がいのあるお子さんの家庭への支援の充実を望みます。保育園から学校へ就学したときに、保護者の負担が大きくなるように思います。（送迎の負担による就労の制限）目を離せないお子さんがいるご家庭の保護者のレスパイトは、絶対に必要です。放課後等デイサービスを利用したいお子さんが使えるよう資源の確保もお願いしたいです。障がいのあるお子さんの保護者に負担がいかず、地域で支える仕組みが整うことを強く願います。

■ 主な自由意見をAIテキストマイニングでビジュアル化

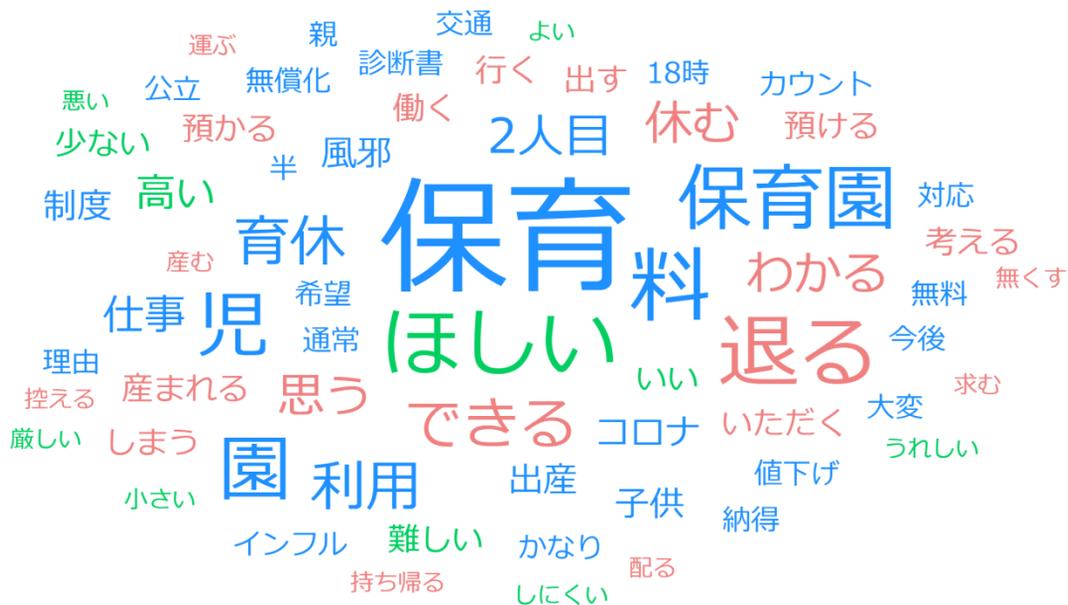


■ 主な自由意見

一 教育・保育サービス 一

- 公立保育園の一時保育の利用時間が不満。8時半から何時間とカウントされる。もっと10時とか預けたい時間から時間カウントしてほしい。他の市はそのようにしている。
- 土曜保育が年間で4ヶ月交代の3か所の形態で、特に場所が須坂保育園と相之島保育園とではかなり距離があり利用しにくいいため利用できずにいます。特に子どもが小さいので、お昼寝布団などの道具を金曜日に持ち帰らなくてはならないことで、足元の悪い日は幼子を抱えて荷物を運ぶことも大変なことを考えると利用が難しいです。本当は土曜日でも利用して仕事をなくてはならないので困っています。また、年少以上は白米を持参しなければならないという点も改善していただきたいです。
- 未満児保育料の無償化。
- 保育料もみんな一律だといいなと思います。
- 公立保育園に入れたいが、18時30分までしか預かってくれない。長野市にて、フルタイムで働いていると少し残業したり緊急で対応しなければならない仕事が入った場合、18時30分までに迎えに行くことがかなり難しくなる。夕方は特に交通が混むので(大型商業施設ができるので今後さらに交通渋滞が心配)19時までの預かりを対応してほしい。
- 未満児保育の料金が高い。
- 育休退園を無くしてほしい。
- 育休退園の制度は理解していますが、実際、保育園に行ってみると退園前とクラスの人数は変わっていないことがあります。なぜ退園したのかわからなくなります。
- 保育料を無料にしてほしい。

■ 主な自由意見をAIテキストマイニングでビジュアル化

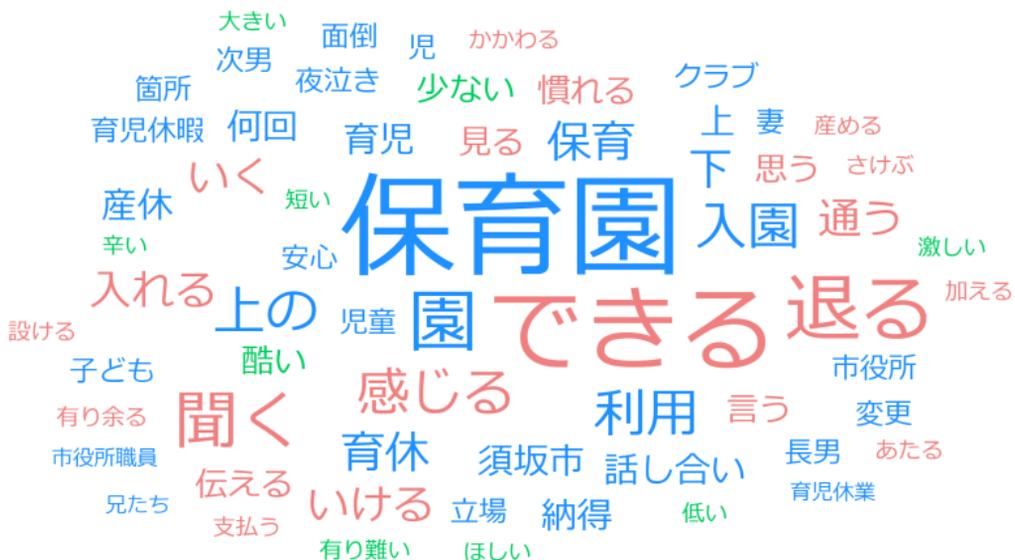


■ 主な自由意見

一 保育園・幼稚園 一

- 育休退園の廃止・誰でも保育利用できる仕組みづくり。
- 産休育休中にかかわらず、子どもの保育園利用ができるようになってほしい。
- 私の産休、育児休暇取得によって兄たち(昨年度長男小学1年生、次男年中)がそれぞれ、児童クラブを利用できなったり、保育標準時間から短時間に変更となり、育児に専念できるかと思いきや長男、次男の面倒をみる時間も増え、育児に加えてさらに負担が大きくなり身体的に大変な状況です。なぜ、産休、育児休暇中だからとって児童クラブの退所や保育園時間短縮と変更されるのかが納得できません。
- 兄弟が同じ保育園に入れず現在2箇所送迎中です。2箇所回らなければいけないため、仕事開始時間に間に合わせるために余計な朝延長代を支払わなければいけないのがモヤモヤする。連日の夜泣きがひどく、目眩や嘔吐が激しくなり、突然涙が出るようになり限界を感じたため一時保育の申請をしました。第1子が保育園の未満児クラスに通っている途中で、第2子を妊娠しました。その場合、ある市では上の子が保育園を退園しなければいけないと聞きましたが、須坂市ではそのまま通っていられて安心しました。
- 2人目出産後の育児休業で上の子が退園させられた事が納得いかない。保育を必要とする事由にあたらぬ意味がわからない。上の子を見るための育休ではなく下の子を見るための育休なのに。
- 下の子の面倒で上の子の相手なんて出来ないしイヤイヤ期で体力有り余ってる上の子を放置するしかないしとにかく辛い半年だった。他の市では退園にならないと聞いた事もあるし、待機児童も少ないと聞くのに退園になる理由は？今年度から退園にならないという話も聞いたけど余計納得いかない。せっかく保育園にも慣れてきてたのにまた慣れるまで泣きさげぶ上の子を下の子を連れながら通わせるのが苦痛。
- 未満児で保育園申込するも、落ちてしまい、入れない。

■ 主な自由意見をAIテキストマイニングでビジュアル化

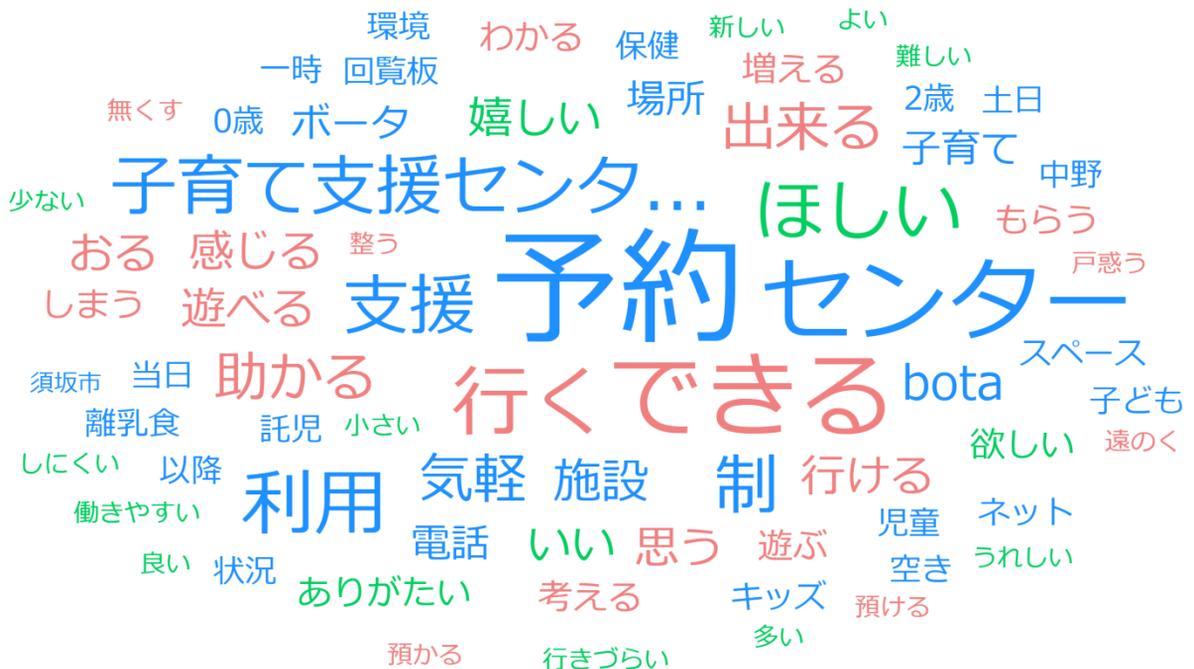


■ 主な自由意見

－ 子育て支援センター・児童センター －

- 子育て支援センターの予約をウェブ上で出来るようにしてほしい
- 子育て支援センターのように、安心して子どもを遊ばせる事ができる場所が増えると嬉しいです。夕方以降や土日祝日に一時的に子どもを預けることができる制度や場所があれば両親が近くにいない共働き世帯は助かります。
- 3月まで3歳・1歳の2人をみていました。botaや児童センターを利用させていただきとても助かりました。
- botaは予約制で行きたくても行けないことが多い。児童センターは入園前の小さい子が遊べる静かで夢中になれる環境が整っていない。長男は他市で育てたが、とても子育て環境が充実しており、須坂市に引っ越して子育てのしにくさに戸惑った。大型商業施設より市民が憩える公園を作してほしい。
- 子育て支援センターが予約制なので少し利用にハードルがあると感じる。授乳室、おむつ交換室、キッズスペースがある飲食店、託児できる美容室など、子連れでも生活を楽しめる施設がたくさんあると嬉しい。託児施設がある事業所が増えると働きやすい。
- botaができた時はうれしかった。
- 子育て支援センターは乳児クラスで午前中のみ利用をさせてもらっていますが、午後の部や、土日もあると助かります。駅前のbotaは予約が必要とのことで気軽にいけず1回も利用したことがありません。もし、今後も予約必須ならネットで予約できればお互いスムーズで良いかと思えます。0歳・2歳が一緒に遊ぶのが難しく、気軽に利用できる子育て支援センターや施設があると本当にありがたいです。HUBLICのようなものがあると大変嬉しいです。
- 子育て支援センターへの行きづらさ。

■ 主な自由意見をAIテキストマイニングでビジュアル化



2024 年度 第 3 期 須坂市子ども子育て支援事業計画策定

概要版

子ども・子育て アンケート調査結果報告

小学生低学年

【ニーズ調査】

1. 実施主体

須坂市教育委員会

2. 調査概要

第3期子ども子育て支援事業計画策定のため子育てに係るサービスやその支援に関するニーズ状況の把握のため

3. 実施時期

2024年3月から4月

4. 実施方法

アンケート形式によるインターネット調査（通知を郵送）

5. 回答方法

インターネットによる回答

6. 調査対象

住民基本台帳から無作為抽出

※①0歳から6歳（未就学児童）850人

②7歳から12歳（小学校1年生から3年在学）570人

※条件 ①と②が同一世帯とならない児童

7. 回答数

①349先（41.1%） **②231先（40.5%）**

①未就学児童アンケート

②小学校低学年アンケート

■アンケート回答者属性

- アンケート回答者の86.6%が母親。
- 「父母ともに」子育てを行っているが63.6%。一方、主に「母親」が34.2%と母親への子育ての負担の偏りがみられる。
- 45.5%の回答者が「パート・アルバイト等で就労している」が、フルタイムへの希望があっても実現できない見込みがないが44.3%おり、希望する就労形態の実現には依然としてハードルが高い。

■子育て環境（周囲の協力、相談場所等）

- 子育てに日常的に関わっているのは、「父母ともに」が63.2%と最も高く、次いで「母親」（35.1%）、「祖父母」（20.8%）となっている。
- 子育てにもっとも影響を与える環境として「家庭」（96.1%）と「学校」（83.1%）が上位。
- 「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」（60.2%）や「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」（31.6%）のとおり、祖父母等の親族にみてもらえる環境にあるが、「祖父母等の親族の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」（31.5%）や「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」（25.5%）との回答も一定数ある状況から、子どもを見てもらっていることに対する心配や不安も窺える。
- 子育てをする上で、91.3%が気軽に相談できる人や場所もあると回答している。一方、相談できる人がいなく、相談場所もないが6.9%であった。
- 具体的な相談できる人や場所として「同居の家族」が63.2%と最も高く、次いで「別に暮らす祖父母等の親族」（58.4%）、「友人・知人」（56.7%）と続いている。一方、市が運営している「子育て支援センター、児童センター、児童クラブの職員」は12.6%にとどまっている。

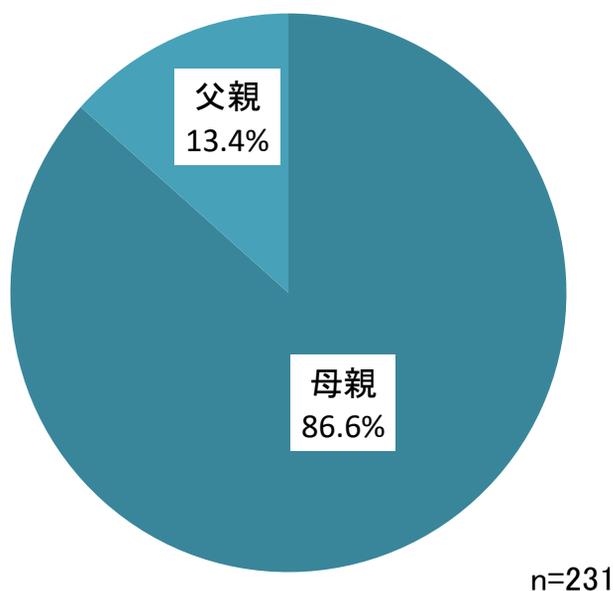
■休日の「放課後児童クラブ」利用希望や利用状況

- 土・日曜などの休日の「放課後児童クラブ」の利用希望について、8割以上が「利用する必要はない」と回答している。一方、夏休みなどの長期の休暇期の放課後児童クラブ（学童保育）の利用希望については、「低学年の間は利用したい」（32.0%）、「高学年になっても利用したい」（27.7%）と普段の休日に比べ、利用希望が高くなっている。

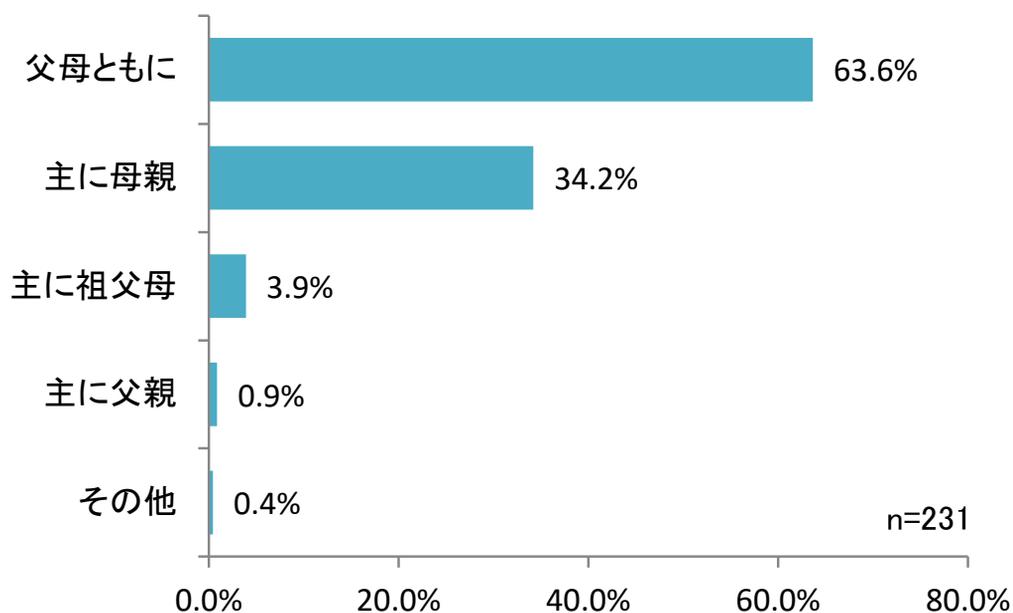
■須坂市に対する子育て環境や支援への満足度

- 須坂市に対する子育て環境や支援への満足度について、半数近くが「普通」と回答している。「満足している」および「やや満足している」が20.4%とやや低位であり、今後子育て環境や支援に対する満足度をさらに向上させていくために、子育て世代の実情や求めるニーズに応じた施策の展開が重要といえる。

アンケート回答者の割合は「母親」が86.6%、「父親」が13.4%。

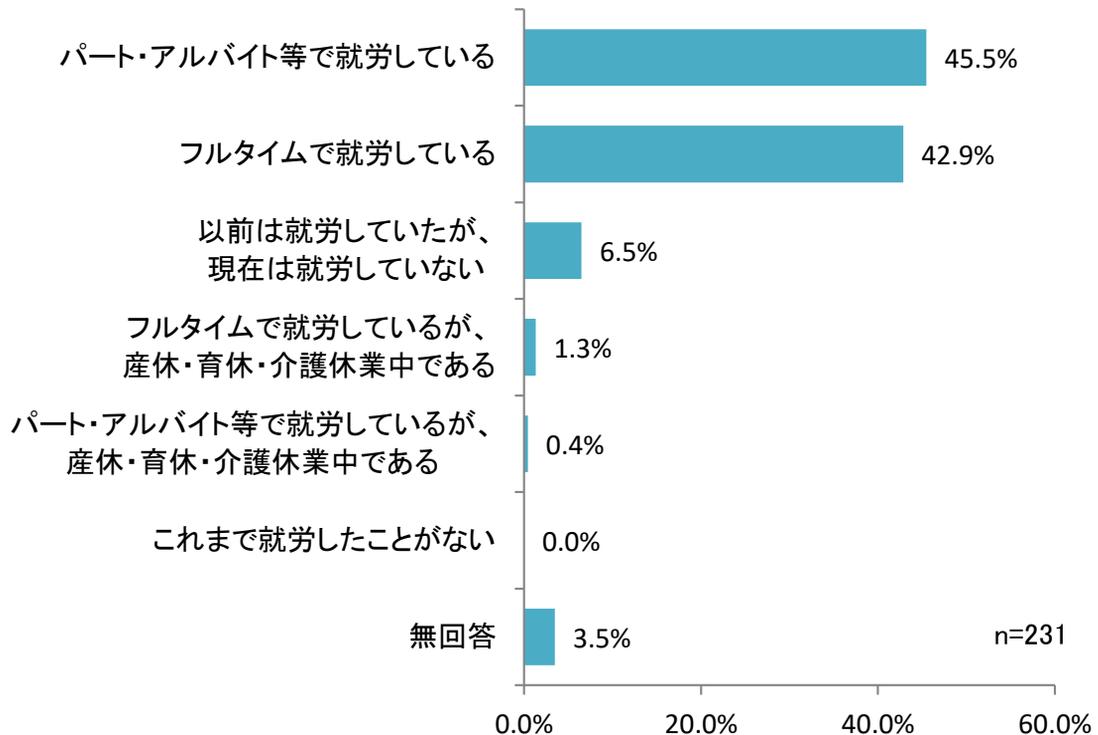


「父母ともに」が63.6%と最も高く、次いで「主に母親」が34.2%となっている。



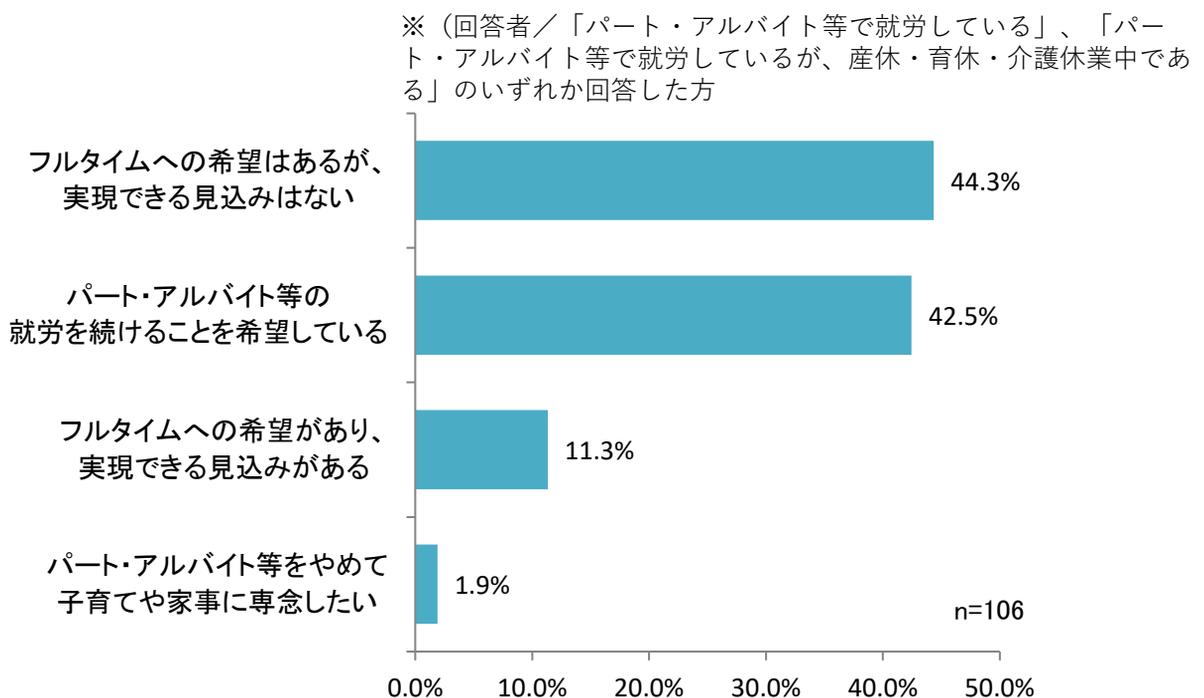
問 母親の就労状況（自営業、家族従事者含む）

「パート・アルバイト等で就労している」が、45.5%と最も高く、次いで「フルタイムで就労している」が、42.9%となっている。



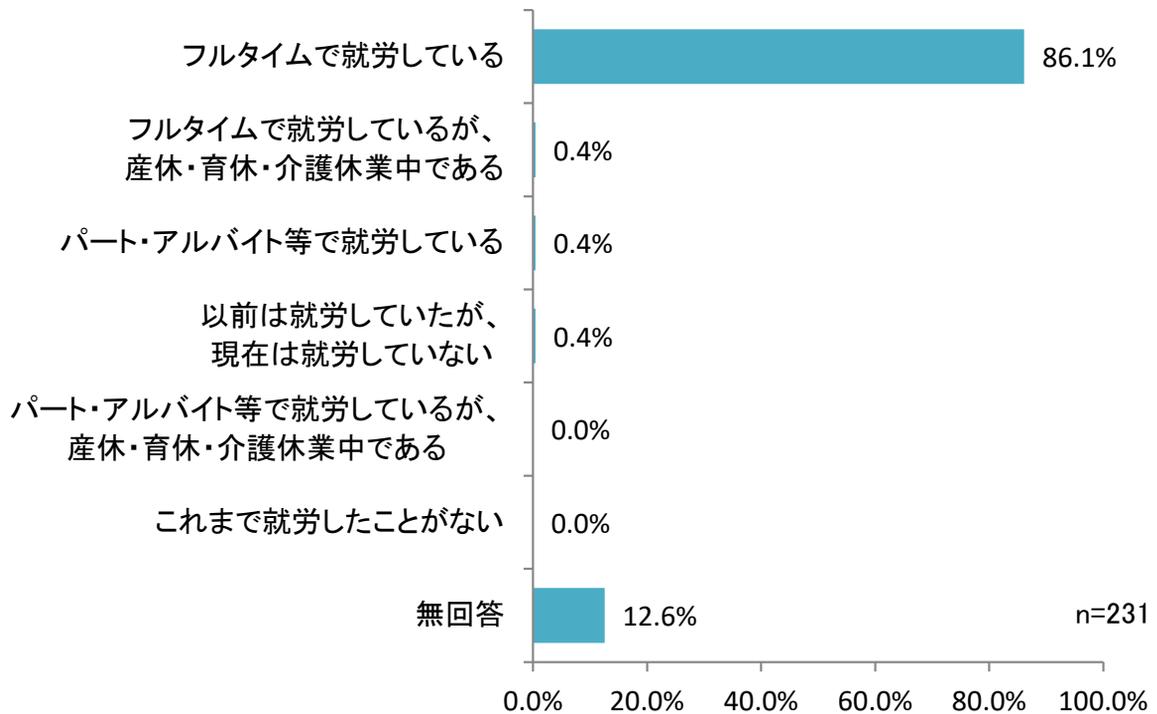
問 フルタイムへの希望の有無

「フルタイムへの希望はあるが、実現できる見込みはない」が44.3%と最も高く、次いで「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望している」が42.5%となっている。



問 父親の方の就労状況（自営業、家族従事者含む）

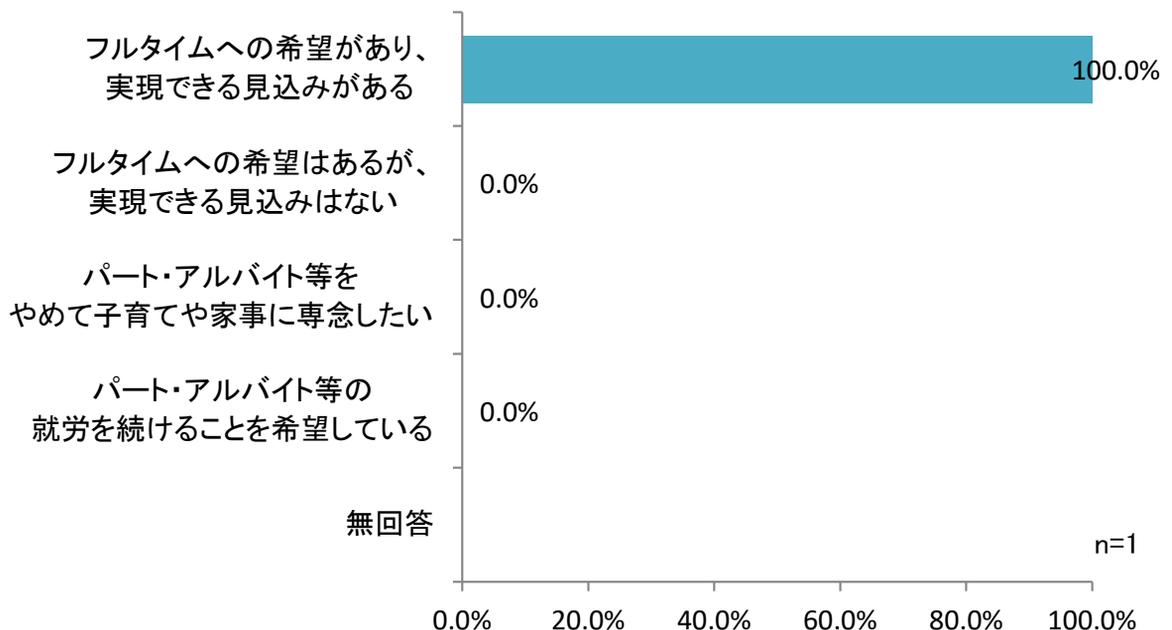
父親の就労状況は、「フルタイムで就労している」が最も高い。



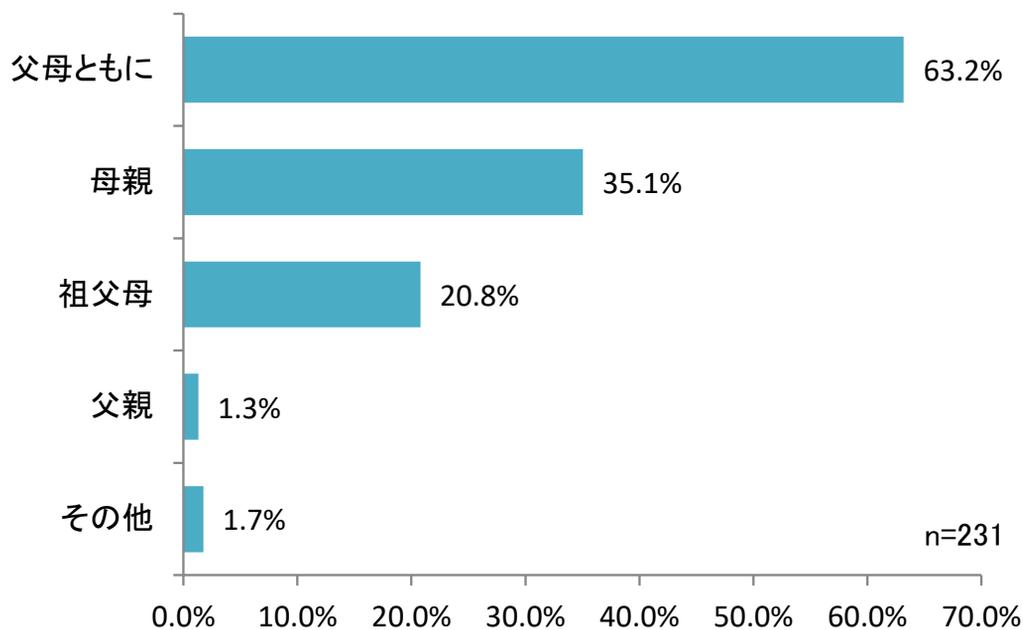
問 フルタイムへの希望の有無（回答者／父親でパート等で働いていると回答された方）

回答した1名は、「フルタイムへの希望があり、実現できる見込みがある」と回答している

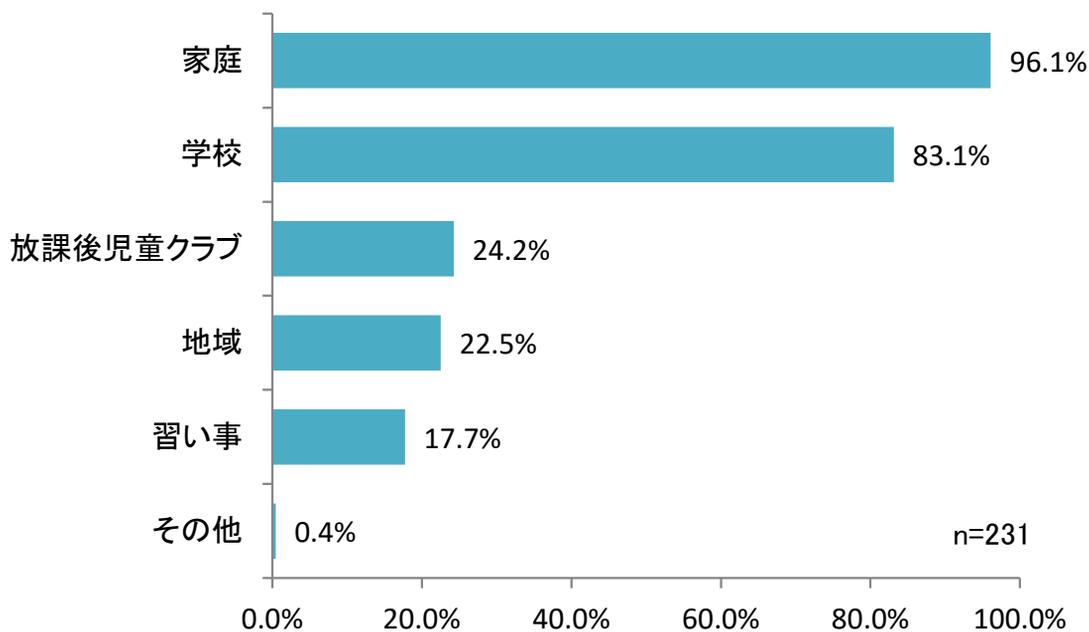
※（回答者／父親でパート等で働いていると回答された方）



「父母ともに」が63.2%と最も高く、次いで「母親」（35.1%）、「祖父母」（20.8%）となっている。

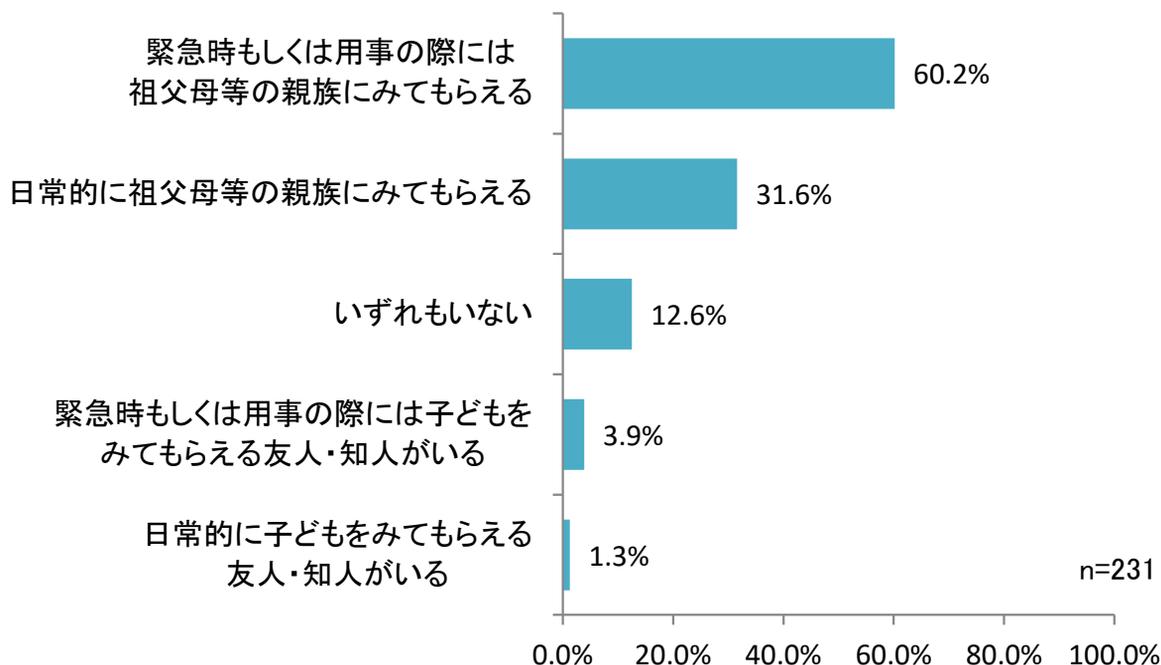


「家庭」が96.1%と最も高く、次いで「学校」（83.1%）、「放課後児童クラブ」（24.2%）となっている。



問 お子さんをみてもらえる親族・知人の有無

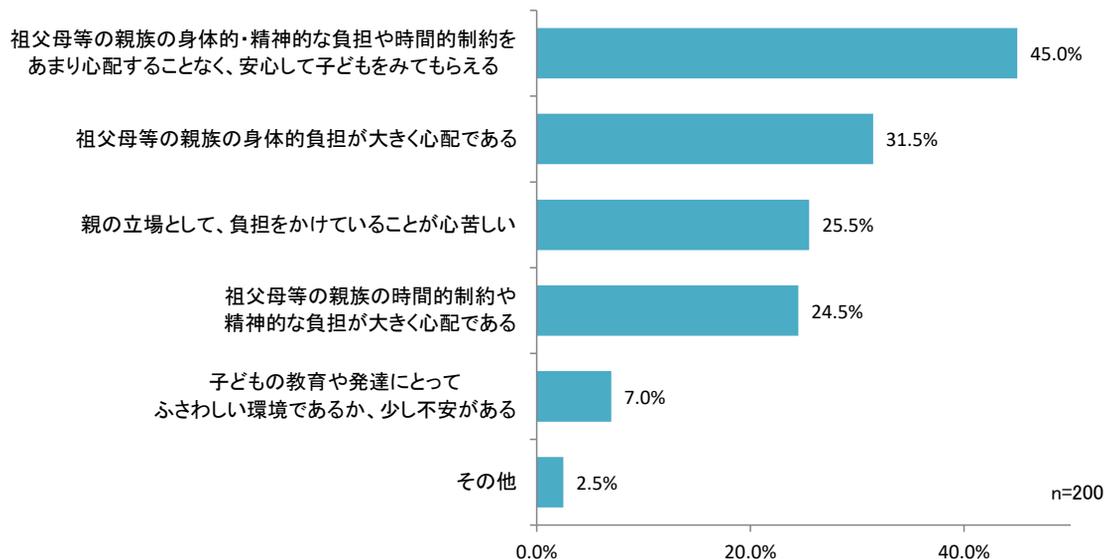
「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が60.2%と最も高く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」（31.6%）となっている。



問 祖父母等の親族にお子さんをみてもらっている状況

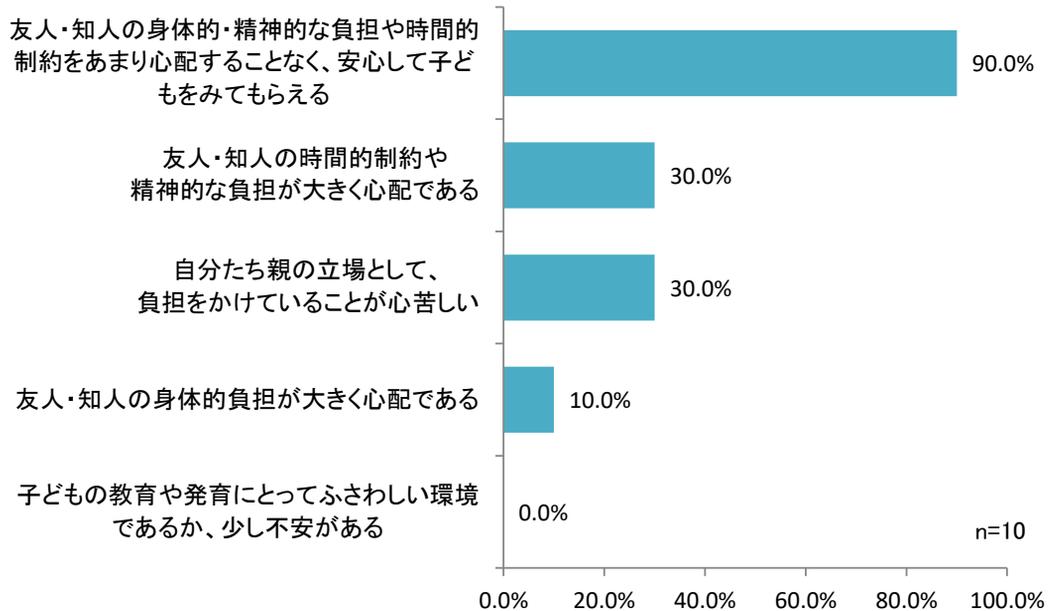
「祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が45.0%と最も高く、次いで「祖父母等の親族の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」（31.5%）、「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」（25.5%）となっている。

※（回答者／「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」のいずれかに回答の方

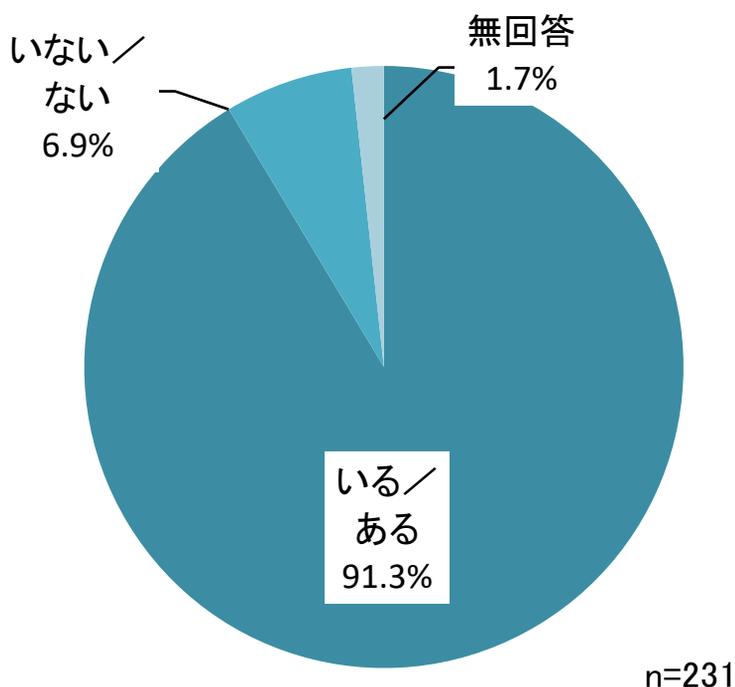


「友人・知人の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が90.0%と最も高く、次いで「友人・知人の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」、「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」が、（ともに30.0%）となっている。

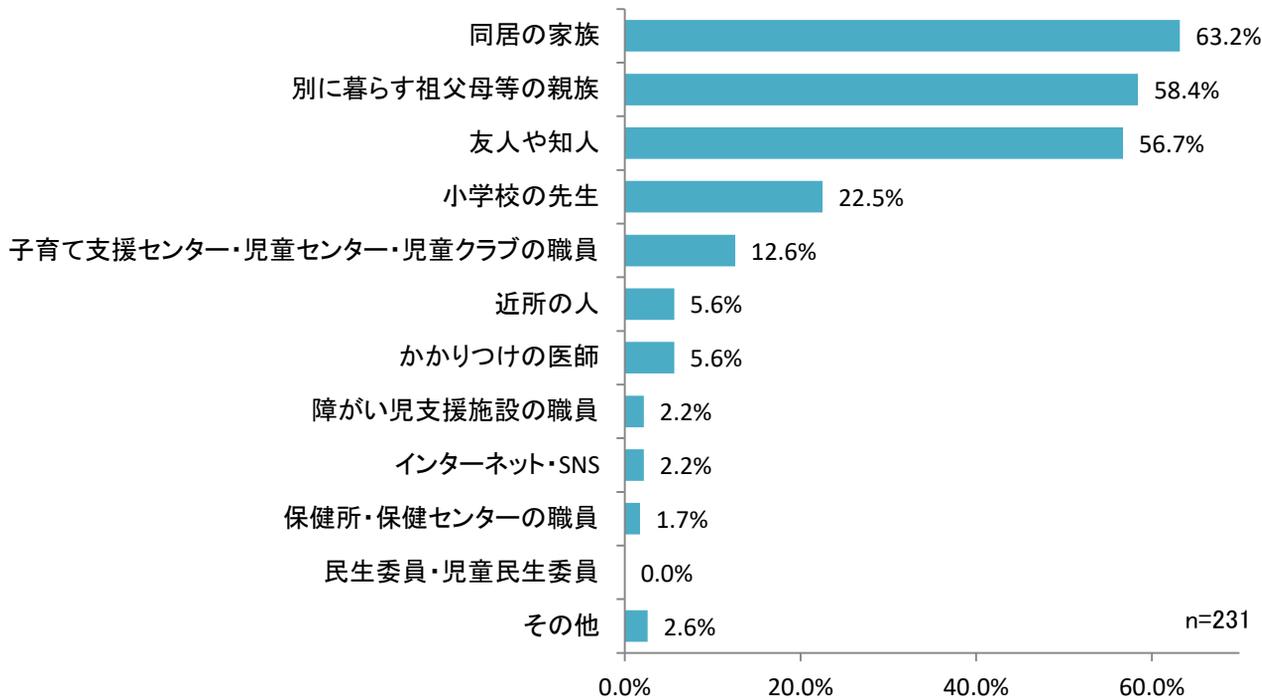
※（回答者／「日常的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる」、「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」のいずれかに回答した方



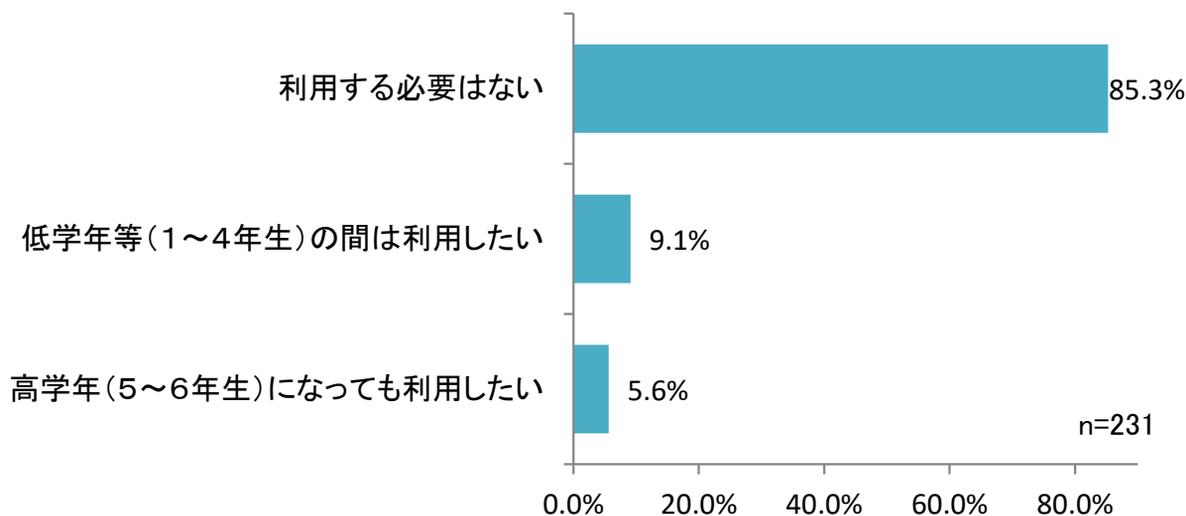
子育てをする上で、気軽に相談できる人や場所について、91.3%が「いる／ある」と回答している。



「同居の家族」が63.2%と最も高く、次いで「別に暮らす祖父母等の親族」（58.4%）、「友人・知人」（56.7%）と続いている。

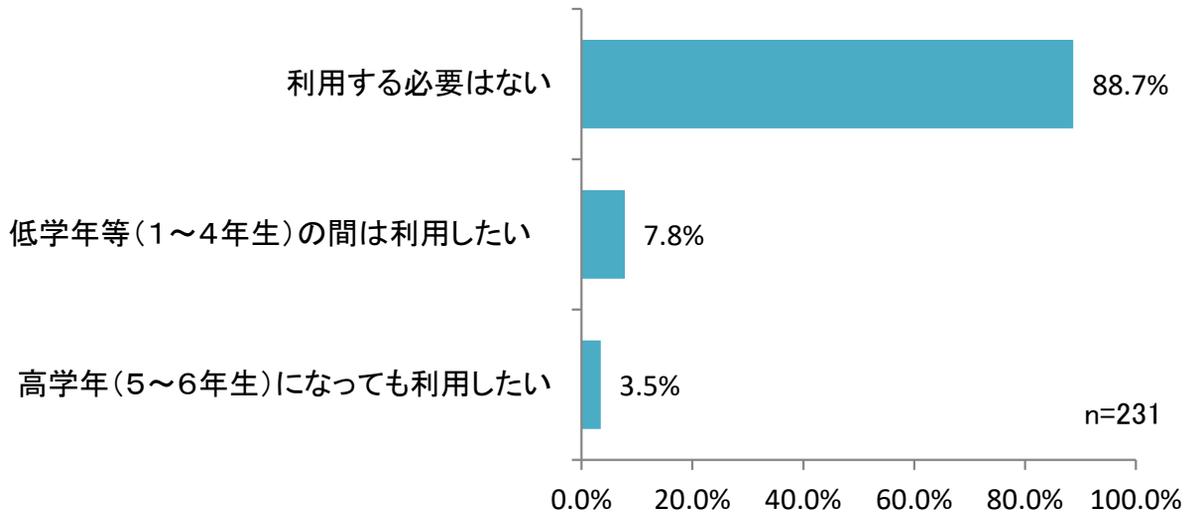


「利用する必要はない」が85.3%と最も高い。低学年、高学年ともに土曜日の「放課後児童クラブ」を利用したいとの回答割合はいずれも低位であった。



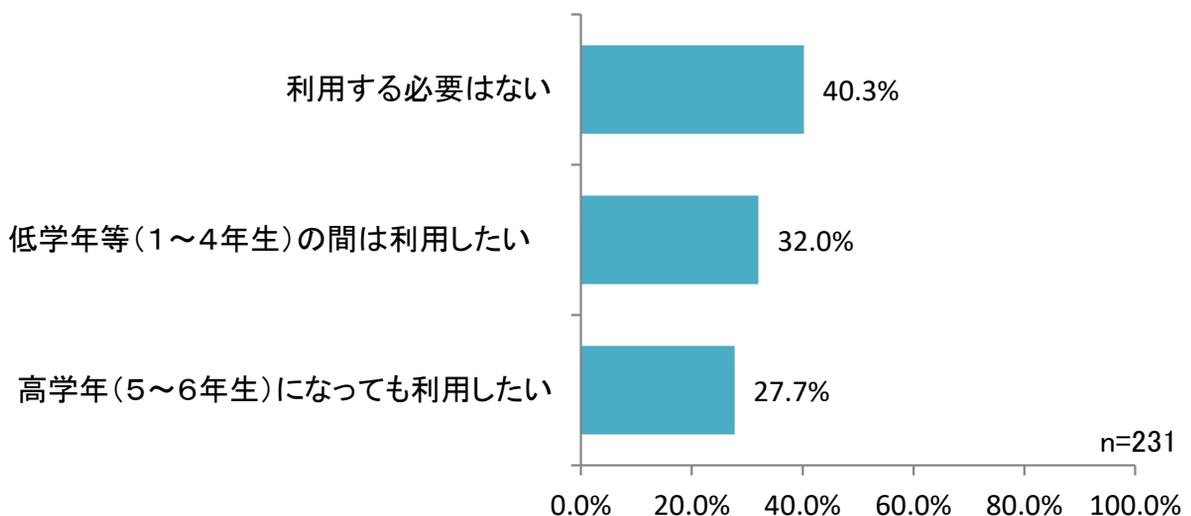
問 日曜日・祝日に「放課後児童クラブ」の利用希望

「利用する必要はない」が88.7%と最も高い。低学年、高学年ともに日曜日・祝日に「放課後児童クラブ」を利用したいとの回答割合はいずれも低位であった。

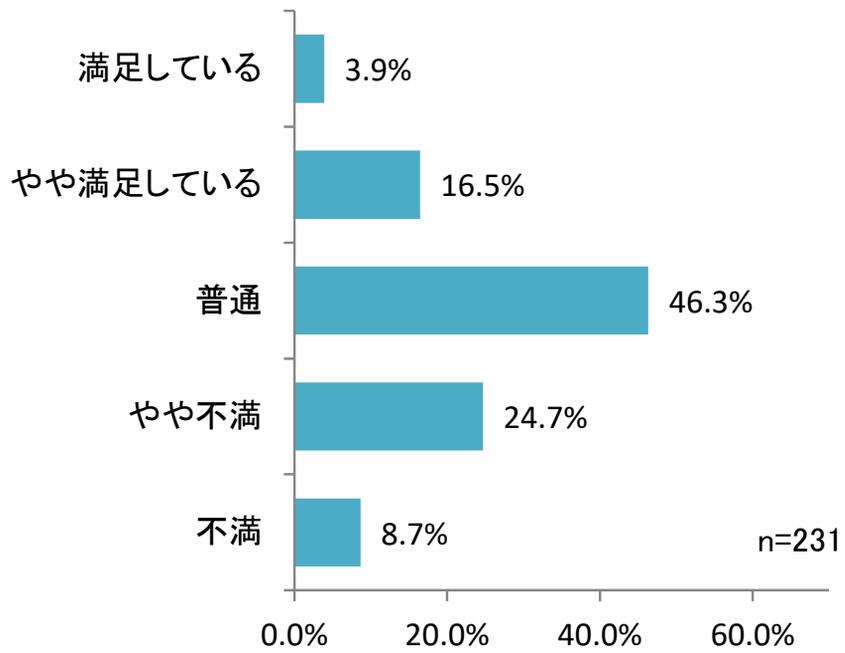


問 長期の休暇中に「放課後児童クラブ(学童保育)」の利用希望

長期の休暇中に「放課後児童クラブ(学童保育)」の利用希望について、「利用する必要はない」が40.3%と最も高く、次いで「低学年の間は利用したい」(32.0%)、「高学年になっても利用したい」(27.7%)と続いている。



須坂市における子育ての環境や支援への満足度は、「普通」が46.3%が最も高い。「満足している」および「やや満足している」は20.4%、「不満」および「やや不満」は33.4%となっている。



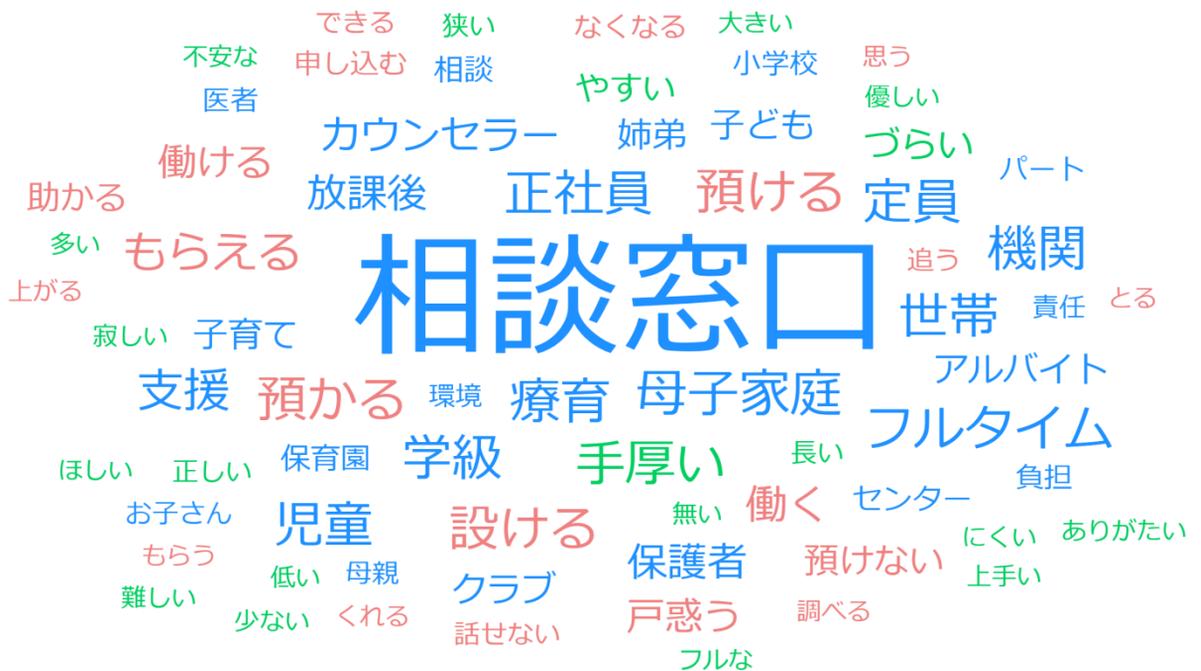
※（回答者／「子育てをする上で、気軽に相談できる人または場所が「いない・ない」と回答した方

■ 主な自由意見

一 相談できる場所 一

- 友人でも話せないことがあるので、カウンセラーの人とかに話を聞いてもらいたい。
- 近所に、お友達もいないし姉弟も、いないので寂しい感じです。近所にも、同じ位のお子さんとかいけば、相談とかできるのかなと思います。コミュニケーションがとるのが下手なので、上手くできるかは分かりません。
- 親としての責任が大きいと思うので、気軽にすぐ相談することはないが、必要であれば、関係するところに相談します。学校とか、医者とか。
- 市が直営の療育支援センターがあれば発達に問題不安がある子どもの相談窓口がわかりやすく敷居も低い。また、相談後、市内で療育（リハビリ等）ができると不安も減る。
- 支援学級に関わる先生方の理解と、子どもの症状や行動に対する正しい知識。できるだけ多くの先生が対応できるようになると先生の負担が偏らないと思います。支援学級などに通う子ども対象のイベントなどがあると、遊びながら他の保護者との意見交換や交流ができそう。健常児の中では気を使い孤立しがち。

■ 主な自由意見をAIテキストマイニングでビジュアル化



2022年度「子育ても働きがいも！

子育て・就労支援の総合応援プロジェクト事業」

概要版

子育て世帯アンケート 調査結果報告書

2023年3月15日

調査の概要

1. 調査対象者

- ・須坂市内在住の0～18歳の子を養育する家庭2,000世帯を無作為に抽出

2. 調査期間

- ・令和4年12月28日（水）～令和5年2月2日（土）

3. 調査方法

- ・配布方法：郵送による配布
- ・回収方法：郵送またはWEBによる回答

4. 回収状況

- ・回答者数 696先（うちWEBによる回答218先）
- ・回収率 34.8%

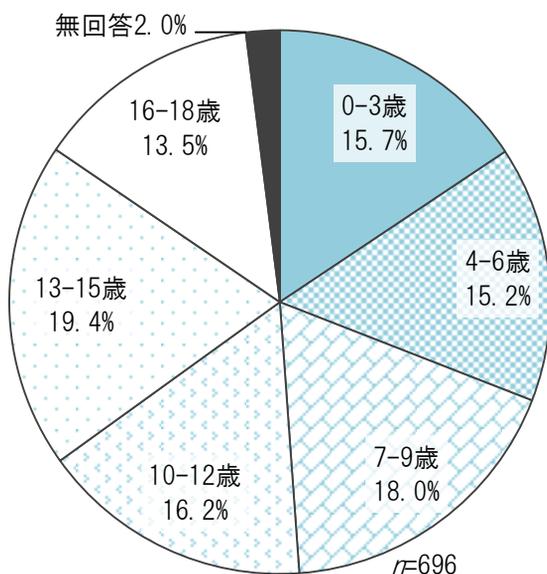
5. その他

- ・四捨五入の関係により、構成比の合計が100%にならない箇所がある

問1

宛名の子の生年月日

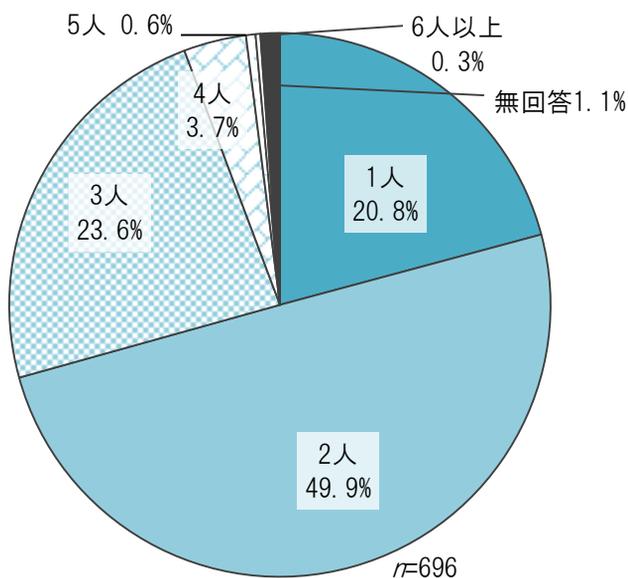
- 宛名の子の年齢は均等に分布しており、各年齢から万遍なく回答を得ることができたと言える。
- 尚、右のグラフは令和4年度末時点の年齢を基準に集計している。



問2

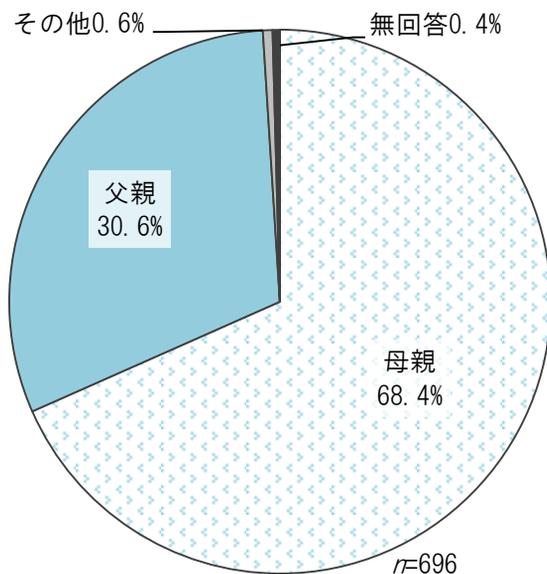
宛名の子を含めたきょうだいの人数

- 宛名の子を含むきょうだいの人数について、「2人」が49.9%と最も高く、次いで「3人」が23.6%、「1人」が20.8%となっている。
- きょうだいの人数3人以内の家庭が、全体の94.3%を占めている。



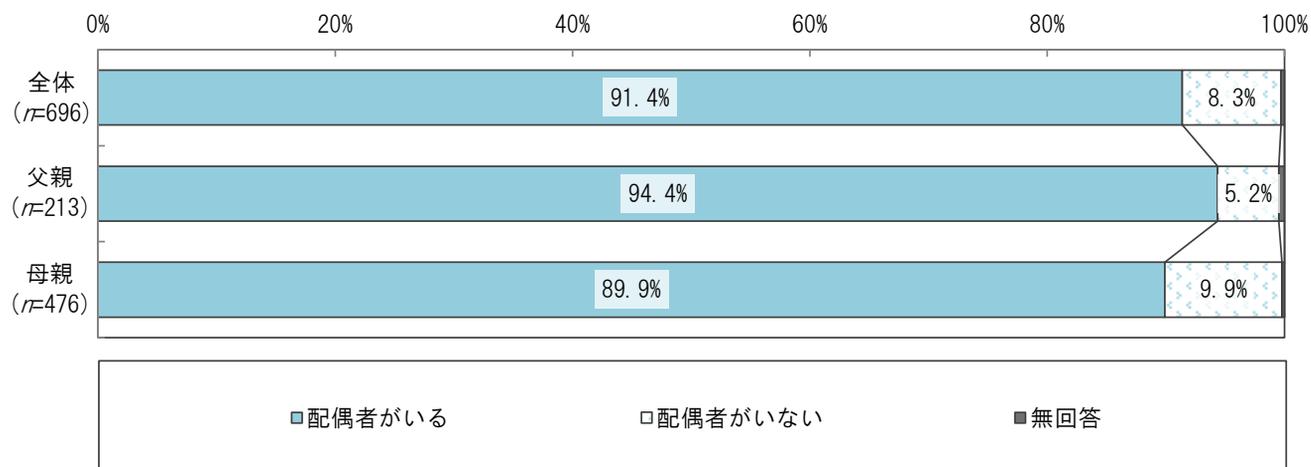
問3 質問票の回答者（宛名の子からみた関係）

- 68.4%は「母親」、30.6%は「父親」による回答となっている。
- 「その他」の回答者は「祖父」「祖母」「両親」である。

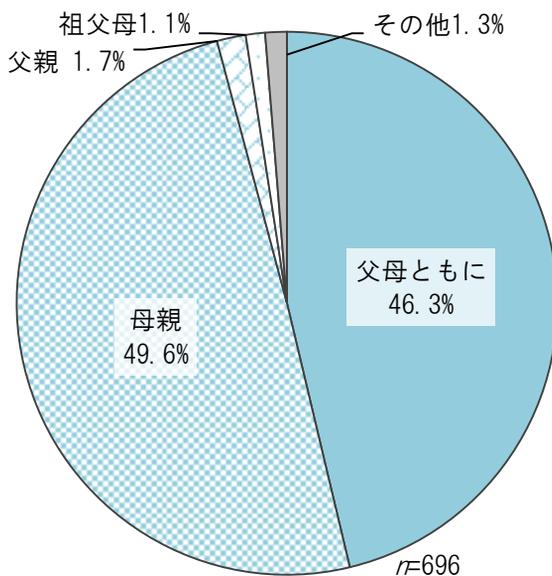


問4 回答者の配偶関係

- 回答者全体では、91.4%が「配偶者がいる」と回答している。
- 父母別に見ると、父親の5.2%、母親の9.9%が「配偶者がいない」と回答している。

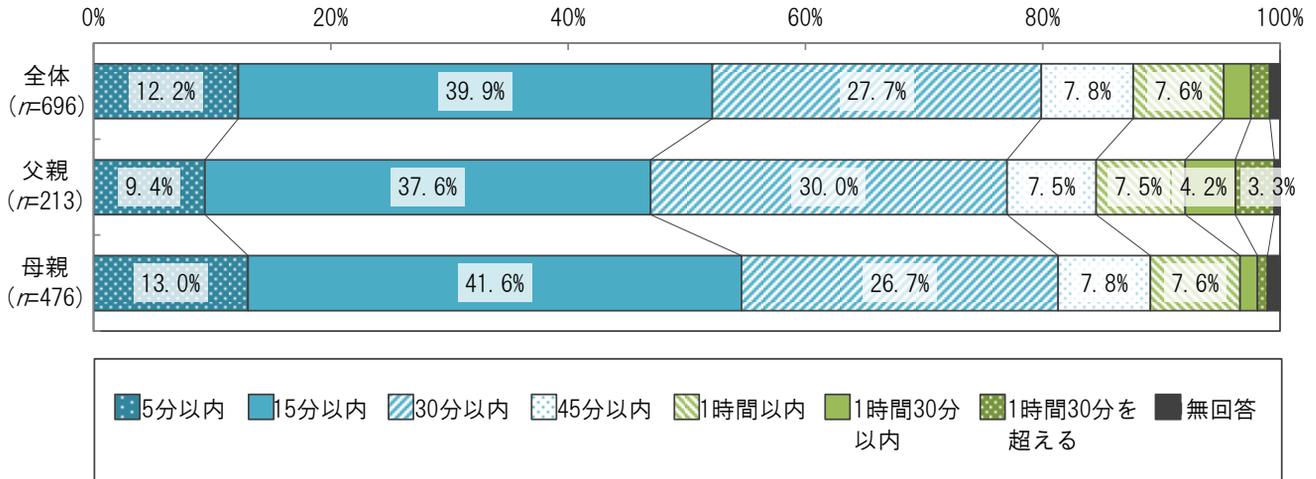


- 日常的に、主に子の面倒を見ている人について、46.3%が「父母ともに」、49.6%が「母親」と回答している。
- 半分近くが「父母ともに」と回答していたものの、「母親」のみという回答も約半数あり、母親の負担が相対的に大きいことがうかがえる。
- 「その他」の主なものとしては、「保育園」「寮生活」などが挙がっている。



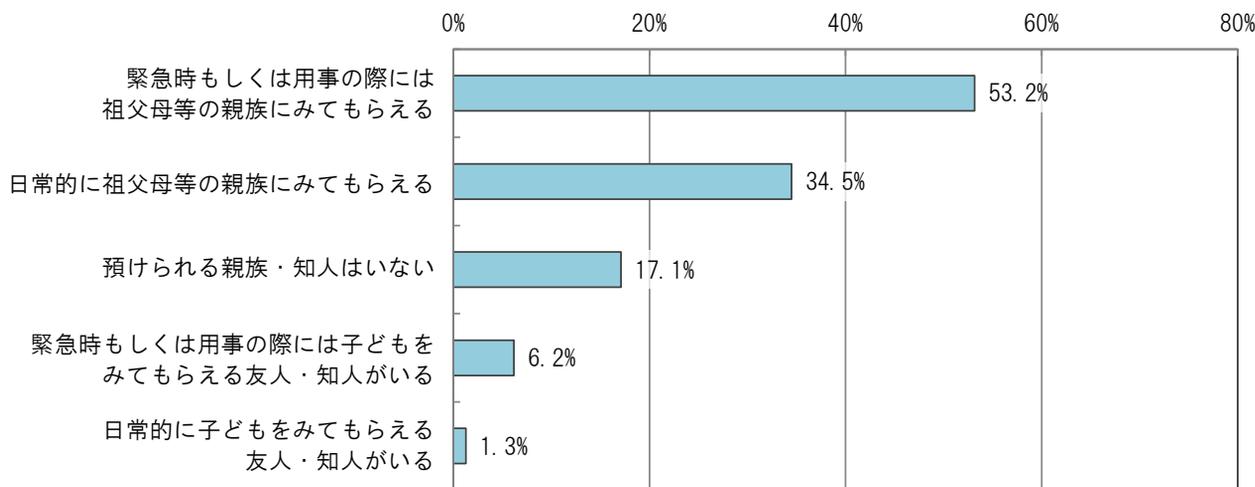
問6 普段いる場所（職場や自宅）から保育所・学校までの移動時間

- 普段いる場所から保育所や学校までの移動時間について、回答者全体では、52.2%が「5分以内」ないし「15分以内」と回答している。
- 父母別に見ると、父親は46.9%、母親は54.6%が「5分以内」ないし「15分以内」と回答していた。また移動時間が1時間を超える人の割合は、父親が7.5%であるのに対し、母親は2.3%である。
- 母親と比較して父親の方が、普段いる場所が保育所・学校から離れている傾向にある。例えば子どもの急な発熱時の送迎対応をしなければならない場合など、父親の方が負担がより大きいといえる。



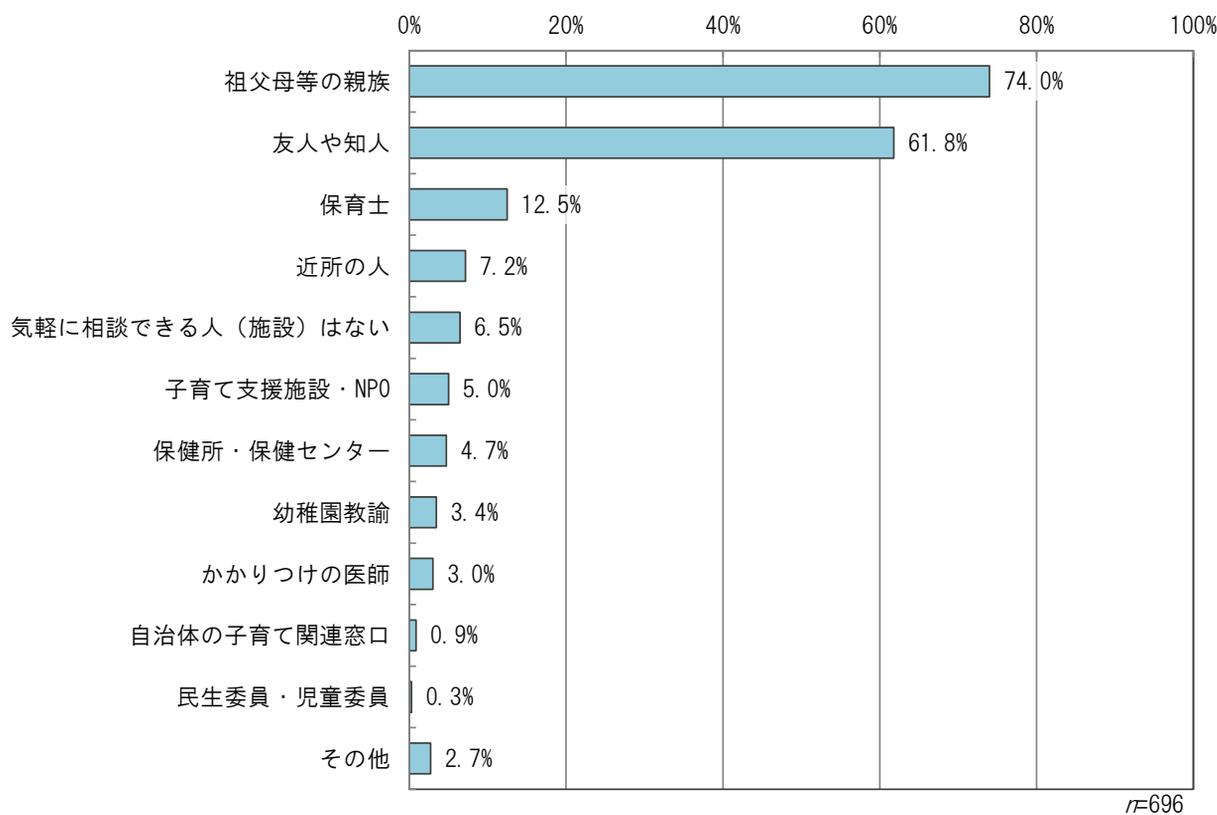
グループ	5分以内	15分以内	30分以内	45分以内	1時間以内	1時間30分以内	1時間30分を超える	無回答
全体	12.2%	39.9%	27.7%	7.8%	7.6%	2.3%	1.6%	0.9%
父親	9.4%	37.6%	30.0%	7.5%	7.5%	4.2%	3.3%	0.5%
母親	13.0%	41.6%	26.7%	7.8%	7.6%	1.5%	0.8%	1.1%

- 移動時間30分以内にいる子を預けられる親族・知人について、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」と回答したのは全体の53.2%となっている。「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」と回答したのは全体の34.5%であり、子を預ける先は祖父母等の親族等であるケースが多い。
- 一方で、友人や知人に子を預けると回答した人の割合は低く、「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」は全体の6.2%、「日常的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる」は全体の1.3%に留まっている。
- また、全体の17.1%は「預けられる親族・知人はいない」と回答しており、一定の託児ニーズがあると考えられる。



n=696

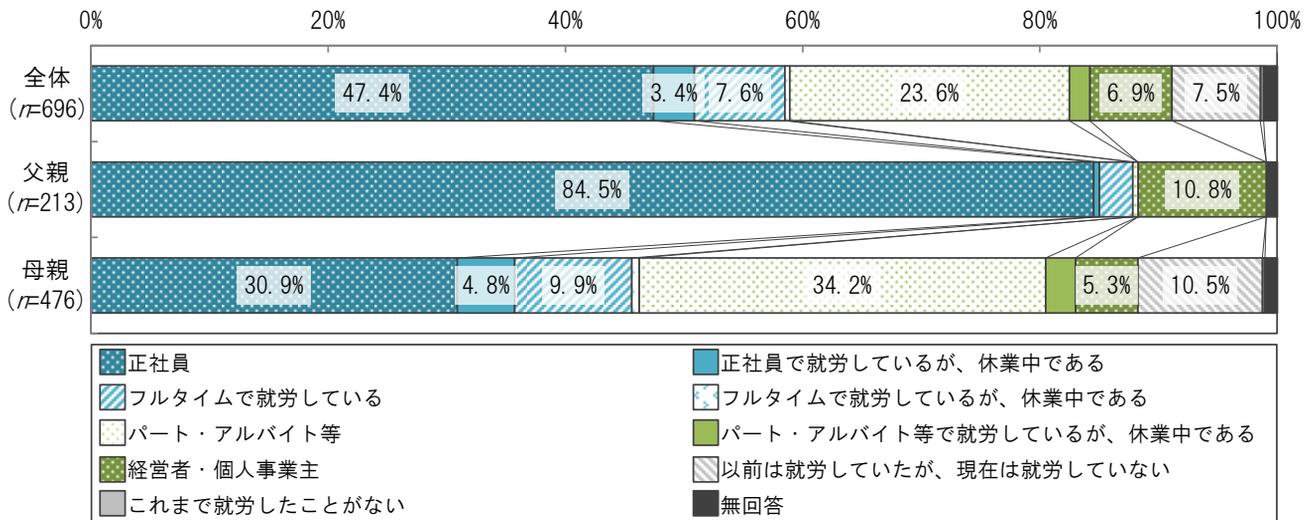
- 子育てや仕事のことを気軽に相談できる人について、「祖父母等の親族」と回答した人が74.0%と最も多く、「友人や知人」（61.8%）、保育士（12.5%）と続いている。
- 上記以外の選択肢については、いずれも10%未満となっている。なかでも「自治体の子育て関連窓口」と回答した人は0.9%に留まっている。
- 須坂市が設置している相談窓口等は利用のハードルが高い、あるいは広く認知されていない可能性も考えられる。



「その他」の主な回答

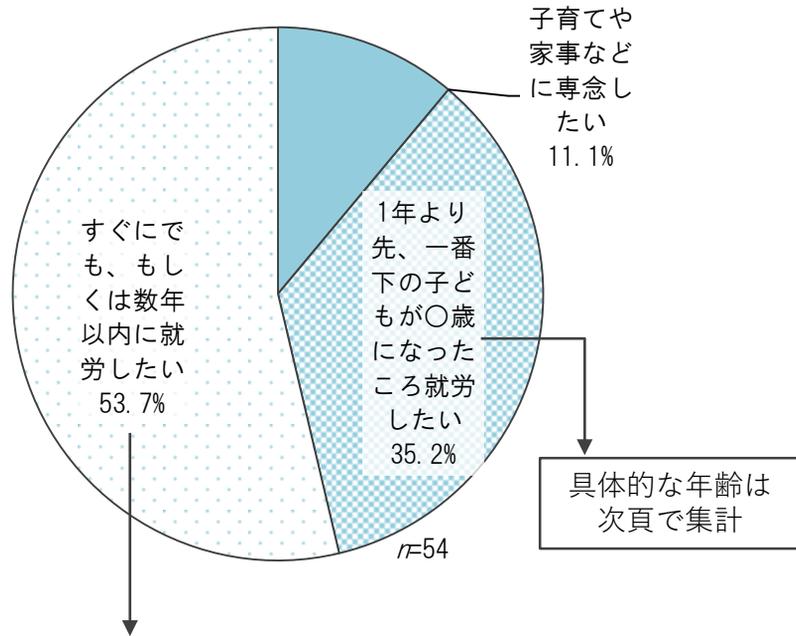
- 職場の同僚
- 担任教諭
- スクールカウンセラー
- 保健師
- 子ども課、社協、かがやきアカデミー、プランナー、療育コーディネーター
- OT（Occupational Therapist：作業療法士）の担当者
- SNS
- これまでに必要性を感じたことがない

- 回答者の現在の就労状況について、「正社員」や「フルタイムで就労している」と回答したのは全体の58.9%である（産休・育休・介護等で休業中の人を含む）。
- 「パート・アルバイト等」と回答したのは全体の25.3%（休業中の人を含む）、「経営者・個人事業主」は6.9%、「以前は就労していたが、現在は就労していない」は7.5%「これまで就労したことがない」は0.3%である。
- 父母別に見ると、「正社員」や「フルタイムで就労している」と回答した父親は87.8%、母親は46.2%であった。このうち産休・育休・介護等で休業中の父親は0.5%で、母親の5.5%よりも低い割合となっている。
- 「パート・アルバイト等」と回答した父親は0.5%、母親は36.8%であった。このうち母親の2.5%は産休・育休等で休業中である。
- 「以前は就労していたが、現在は就労していない」ないし「これまで就労したことがない」と回答した父親はおらず、母親は10.7%である。

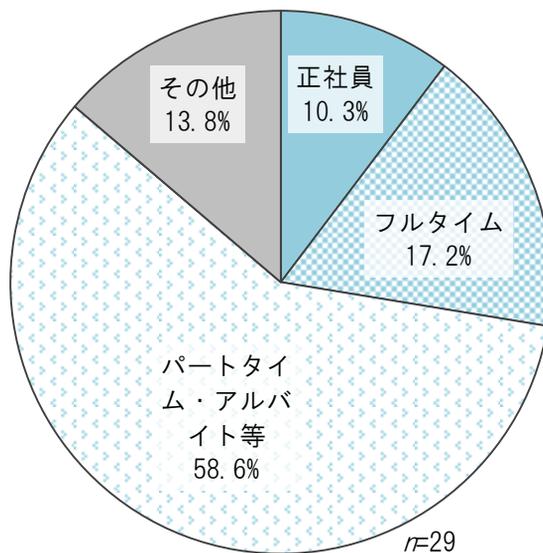


	正社員	フルタイムで就労している	パート・アルバイト等	経営者・個人事業主	これまで就労したことがない	正社員で就労しているが、休業中である	フルタイムで就労しているが、休業中である	パート・アルバイト等で就労しているが、休業中である	以前は就労していたが、現在は就労していない	無回答
全体	47.4%	3.4%	7.6%	6.9%	7.5%	0.4%	0.4%	1.7%	0.3%	1.1%
父親	84.5%	0.5%	0.5%	10.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%
母親	30.9%	4.8%	9.9%	5.3%	10.5%	0.6%	0.6%	2.5%	0.2%	1.1%

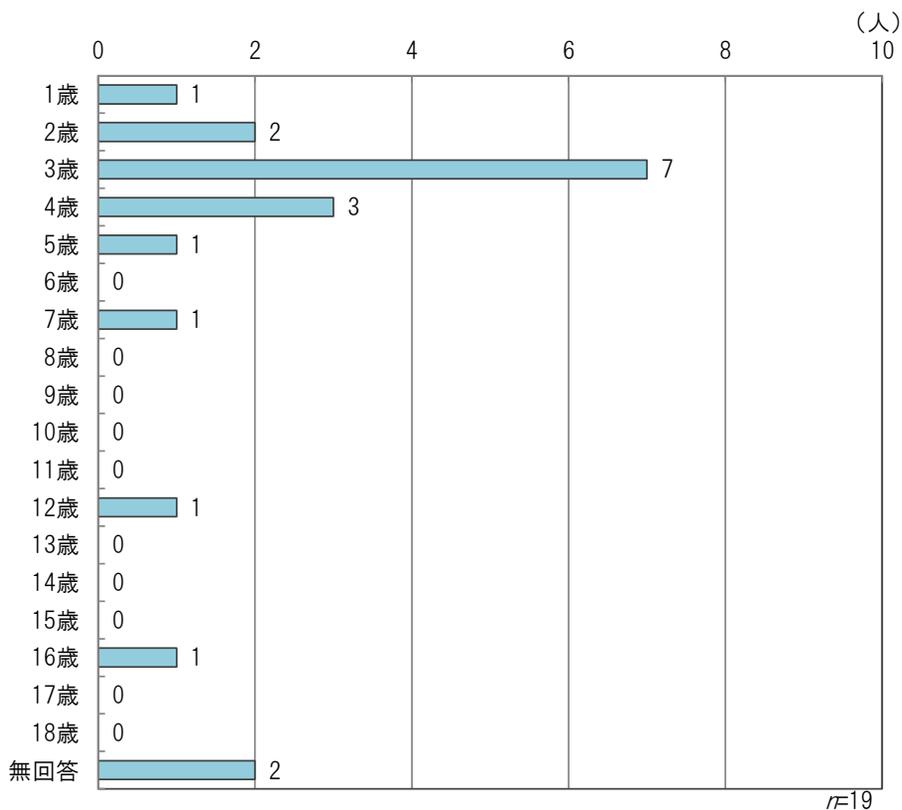
- 問9で「以前は就労していたが、現在は就労していない」「これまで就労したことがない」と回答した人(すべて母親)に対し、就労の希望について尋ねた。
- 88.9%が「1年より先、一番下の子どもが〇歳になったころ就労したい」ないし「すぐにでも、もしくは数年以内に就労したい」と回答していた。現在は就労していない人も就労ニーズは高いことがうかがえる。



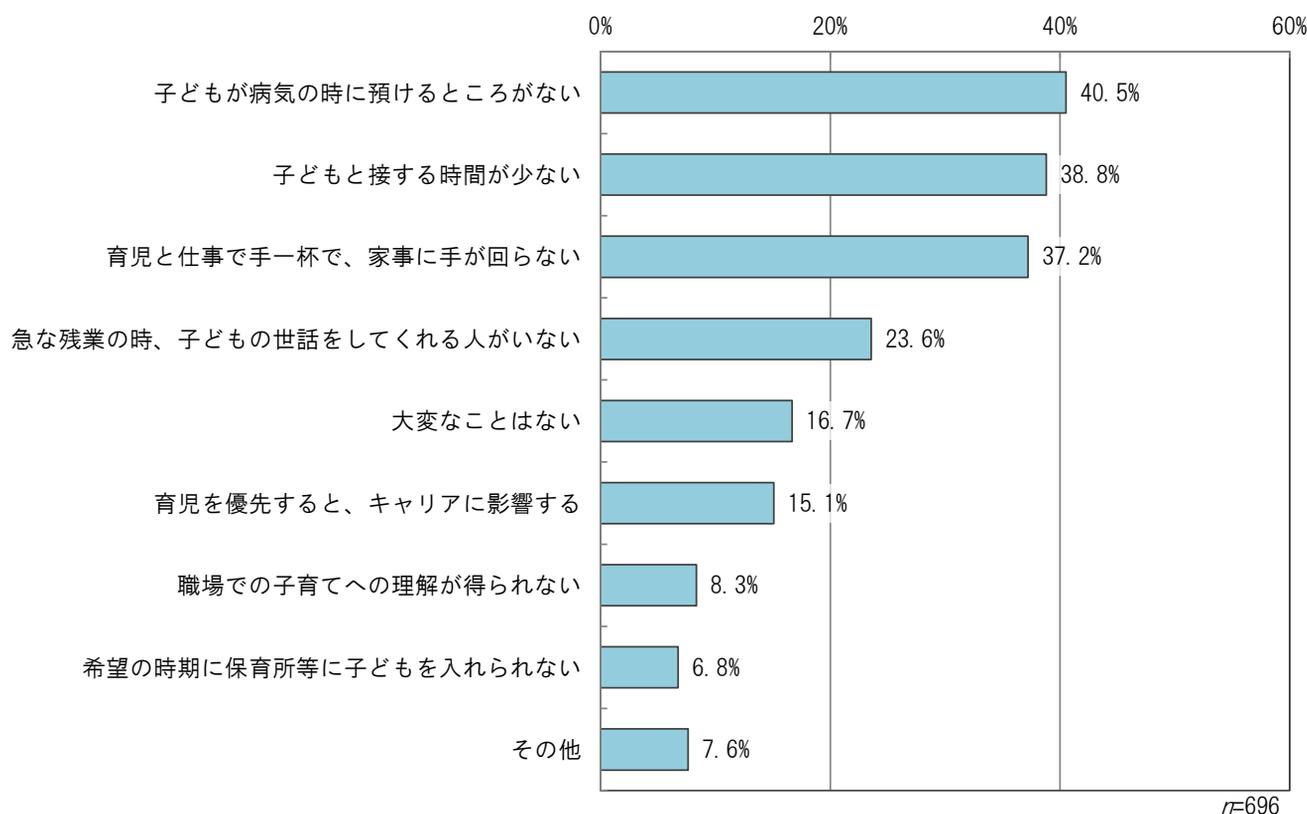
- 「すぐにでも、もしくは数年以内に就労したい」と回答した人について、希望する就労形態を尋ねた。
- 全体の58.6%が「パートタイム・アルバイト等」と回答している。
- 「正社員」「フルタイム」と回答した人を合計すると全体の27.5%となっている。
- すぐにでも、もしくは数年以内に就労したい場合、短時間から働ける「パート・アルバイト等」を希望する人が多いものと考えられる。
- 「その他」には「来年度就労する(決まっている)」「スポットの在宅勤務」「正社員またはパート・アルバイト」が挙げられている。



- 「2.子どもが○歳になったころに就労したい」と回答した人について、就労したいと考える末子の年齢を尋ねた。「3歳」という回答が7人と最も多く、次いで「4歳」が3人、「2歳」が2人であった。
- 末子が未就学児の時点で就労を希望する人が多い。子が満3歳になると幼稚園への入所や保育園の無償利用が可能になるため、特に3歳前後での就労希望が多いことが推察される。
- また末子の就学後は、「7歳」「12歳」「16歳」といった卒業・進学タイミングでの就労を希望する傾向がみられる。



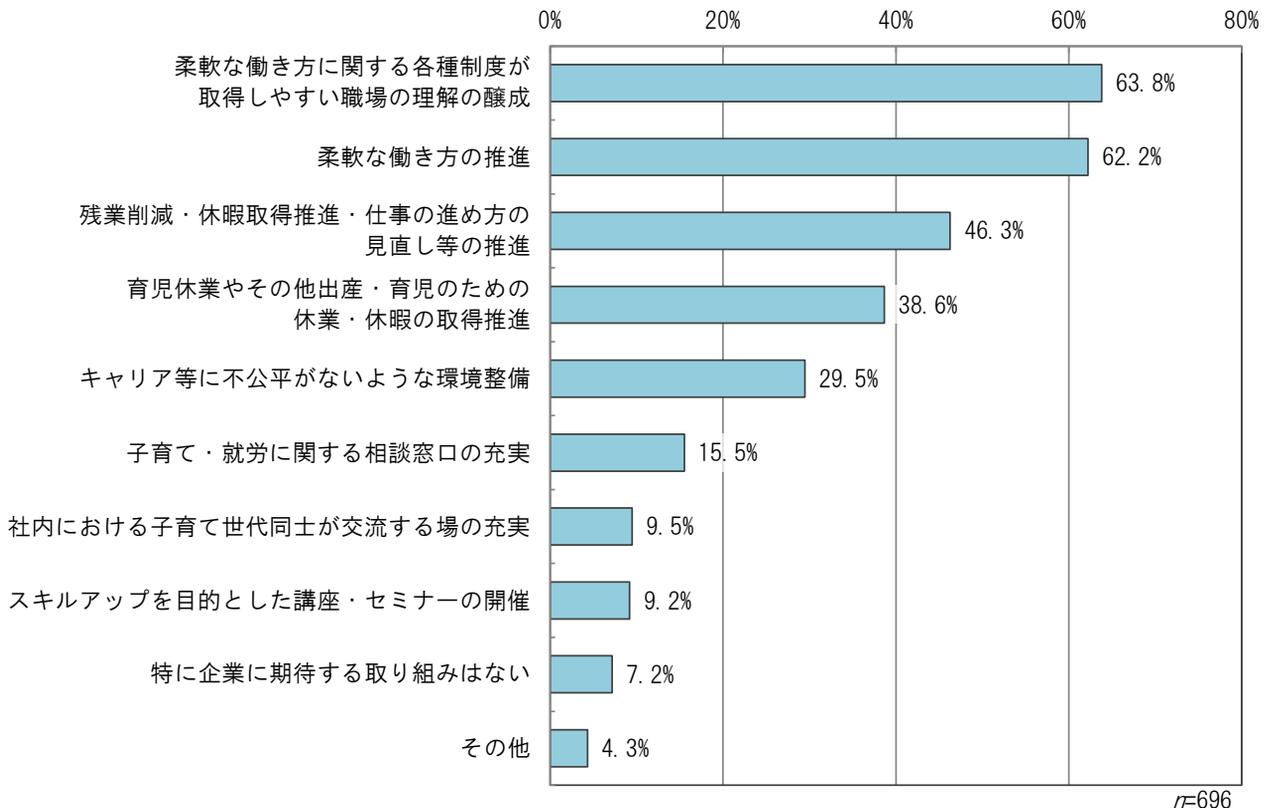
- 「子どもが病気の時に預けるところがない」という回答が40.5%と最も多く、次いで「子どもと接する時間が少ない」が38.8%、「育児と仕事で手一杯で、家事に手が回らない」が37.2%、「急な残業の時、子どもの世話をしてくれる人がいない」が23.6%となっている。
- 子どもが病気の時、急な残業の時等の託児ニーズが高いことがうかがえる。家事を行う、子どもと接するといった時間を確保する余裕がない人も多い。
- また割合はさほど高くないものの、「育児を優先すると、キャリアに影響する」(15.1%)、「職場での子育てへの理解が得られない」(8.3%)といった回答もみられる。



「その他」の主な回答

- 子どもの体調不良やコロナによる学級閉鎖など、急な休みで職場に迷惑をかけてしまうこと
- いざという時に子どもを預ける先がないこと
- 一時保育が利用できないなど、保育園の利用にかかわること
- 有給休暇や時短勤務等が取得しづらいことへの不安
- 自身の体調面や体力面など、仕事を始めるにあたっての不安
- 自身が休んだ時や、もし仕事ができなくなった時の収入面の不安
- 習い事の送迎
- 夫の理解がない
- 小学校に上がった後、帰宅時間が早まり子どもだけで家にいる時間が増加すること
- 一人の時間が欲しい時がある

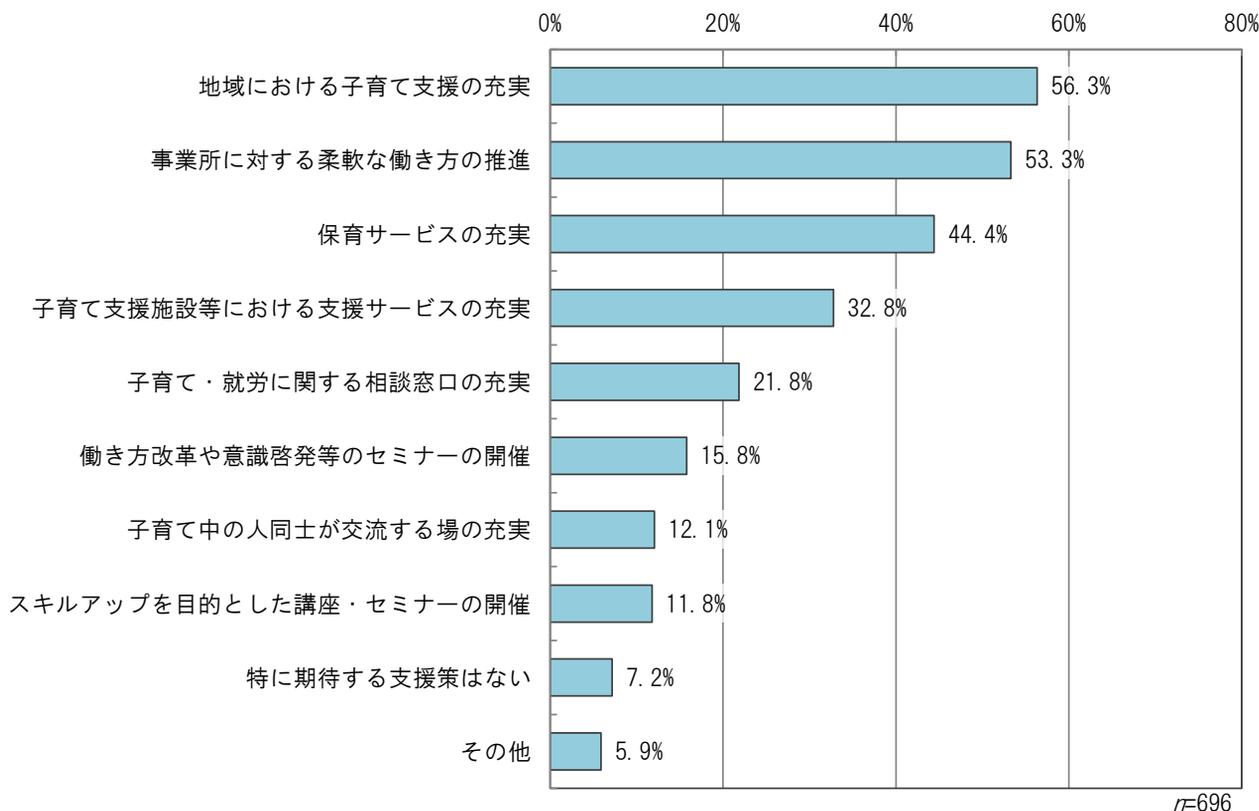
- 半数以上が「柔軟な働き方に関する各種制度が取得しやすい職場の理解の醸成」（63.8%）、「柔軟な働き方の推進」（62.2%）を挙げていた。子育てを理由に柔軟な働き方を希望していても、職場の理解が得られない、あるいは環境が整っていないといった実情がうかがえる。
- 次いで、「残業削減・休暇取得推進・仕事の進め方の見直し等の推進」（46.3%）、「育児休業やその他出産・育児のための休業・休暇の取得推進」（38.6%）という回答も多くなっている。柔軟な働き方を推進するための具体的な取組として、残業削減や休業・休暇取得推進といったニーズが高いと考えられる。



「その他」の主な回答

- 男性が仕事を優先せざるを得ない風潮を変える取り組み
- 父親の育児参加への理解（残業削減や休暇取得促進、勤務地の配慮等）
- 子どもの体調不良等を理由に欠員が出ても、複数人でカバーできる体制づくり（人員の確保等）
- 残業させてほしい
- 子どもの病欠への柔軟な対応
- 職場への託児所の設置や子連れ出勤の検討
- 育児休業や看護休暇を取得した際の収入の補償
- 事情で辞めても再就職が難しくないようにしてほしい。一度辞めた人にはチャンスがない。
- 中小企業以下で働いている者もいるので、回答に困る。少子化もあり従業員の確保も難しく制度があっても働き方としては難しいです。

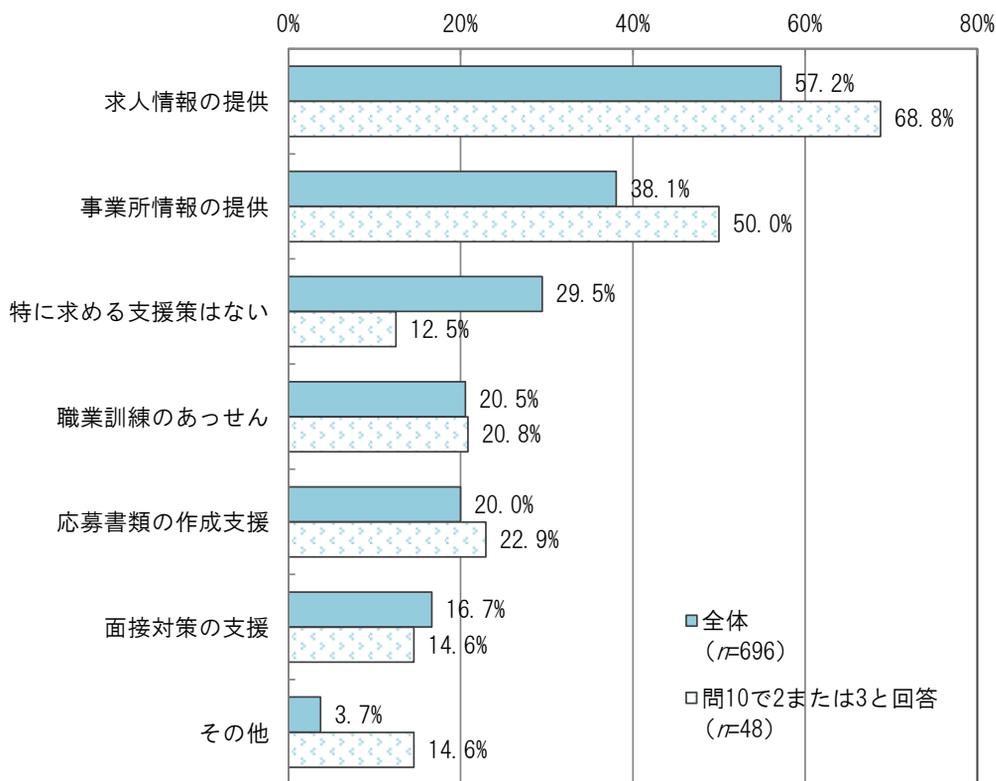
- 「地域における子育て支援の充実」が56.3%と最も高く、子育て全般への支援ニーズは高い。
- 次いで「事業所に対する柔軟な働き方の推進」が53.3%となっていた。問12の回答にもみられるように、育児休業の取得しやすい職場環境や、残業削減へのニーズが高いものと推察される。
- また、「働き方改革や意識啓発等のセミナーの開催」が15.8%、「スキルアップを目的とした講座・セミナーの開催」が11.8%となっており、講座・セミナー開催のニーズも一定数あることがわかる。



「その他」の主な回答

- 子育て中のママの再就職へ向けたセミナーの開催
- 保育園を利用しやすくしてほしい（未満児の保育料無償化、保育認定要件の緩和など）
- ホームページ等における子育てに関連する情報提供の充実
- 子どもが遊べる場の整備（広い公園や、土日祝日に屋内で遊べる施設など）
- 経済的支援の充実（クーポン券配布や児童手当等の所得制限の撤廃、医療費・学費無償化など）
- PTA活動の廃止
- 小児科の充実
- 男女ともに子育てと仕事が両立できるようにしてほしい（働く時間や賃金の見直し、男性の育休取得推進など）
- 子ども達に夫婦は家事も育児も仕事も性別に関係なく、協力、分担して生活していくということを考える場を増やしてほしい
- 行政サービスの電子化推進、簡素化

- 「求人情報の提供」(57.2%)、次いで「事業所情報の提供」(38.1%)のニーズが高い。
- 問10で2または3と回答した人(現在は就労していないが、今後は就労を希望している人)ではこの傾向が高くなっている。

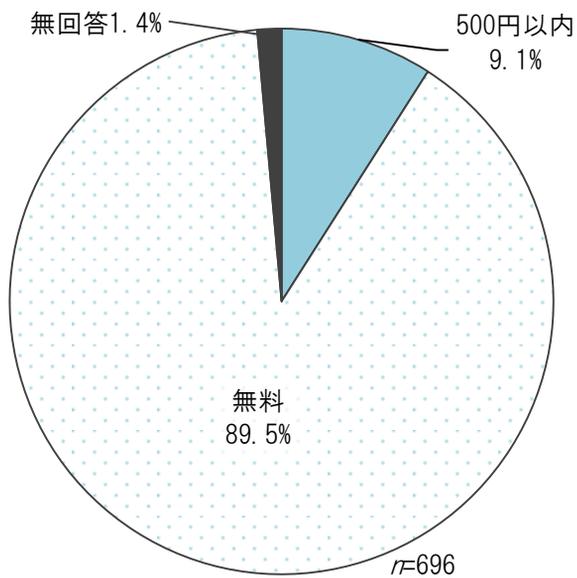


「その他」の主な回答

- 子育てに理解のある事業所や子育てしながらでも働きやすい事業所の情報を提供してほしい
- 子育て世代の就労支援強化(マザーズコーナーを増やす、託児所設置、子育て世代の採用枠など)
- 障がいのある子どもがいるシングルマザーの働き口の確保
- 子育て世代の人が通い易い時間で受けられる講座を開講してほしい
- 失業給付などについて説明やアドバイス
- 就労支援だけでなく社会との関わりを持つことから支援が必要な人がいるので、ハローワークだけでなく行政の横の繋がりで支援してほしい
- 須坂市に職業訓練学校を設けて欲しい

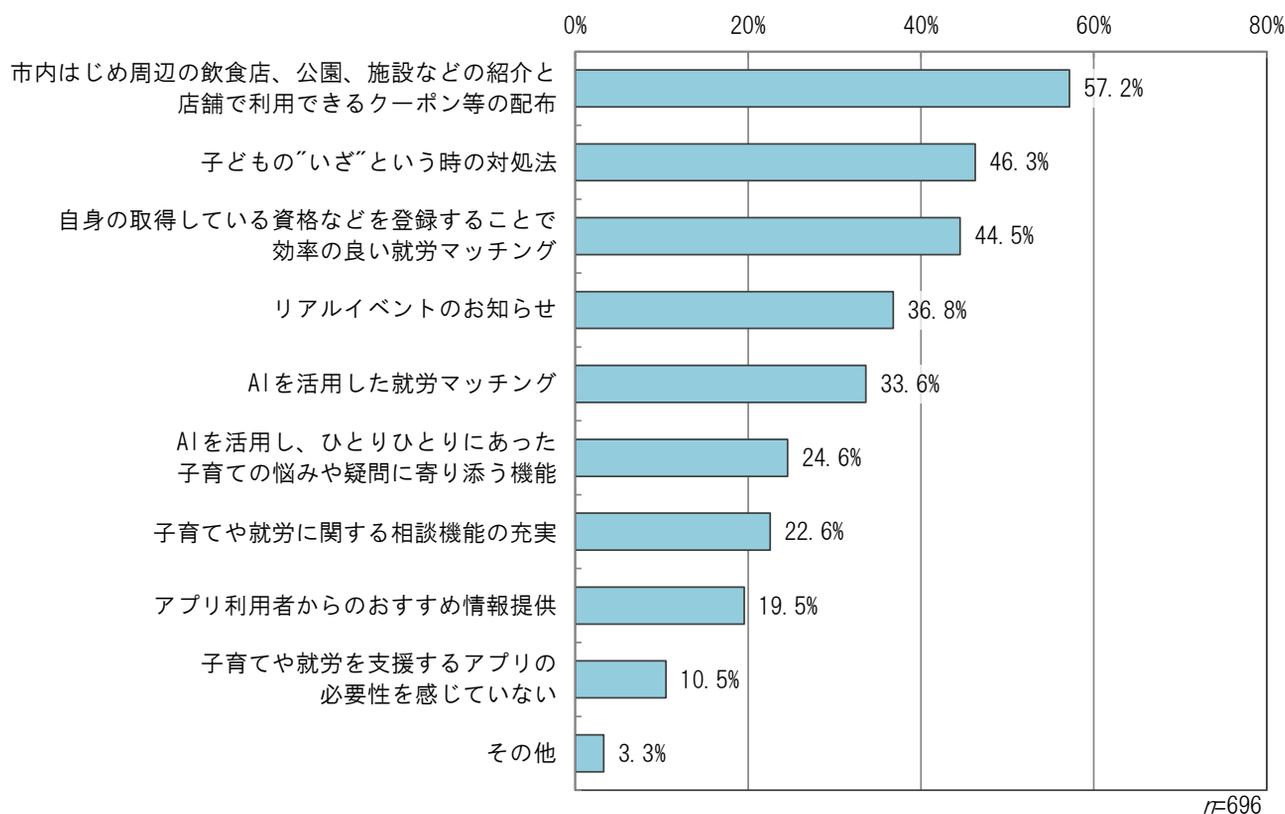
問15 (1) 子育てや就労を支援するアプリを利用する場合、許容できる月額利用料

• 89.5%が月額利用料は「無料」でないと許容できないと回答している。



問15 (2) 子育てや就労を支援するアプリを利用する場合、重視したい機能

- 「市内はじめ周辺の飲食店、公園、施設などの紹介と店舗で利用できるクーポン等の配布」が57.2%と最も割合が高くなっているが、無料で実装する機能としては難易度が高い。
- 次いで「子どもの“いざ”という時の対処法」(46.3%)、「自身の取得している資格などを登録することで効率の良い就労マッチング」(44.5%)、「リアルイベントのお知らせ」(36.8%)が多くなっている。

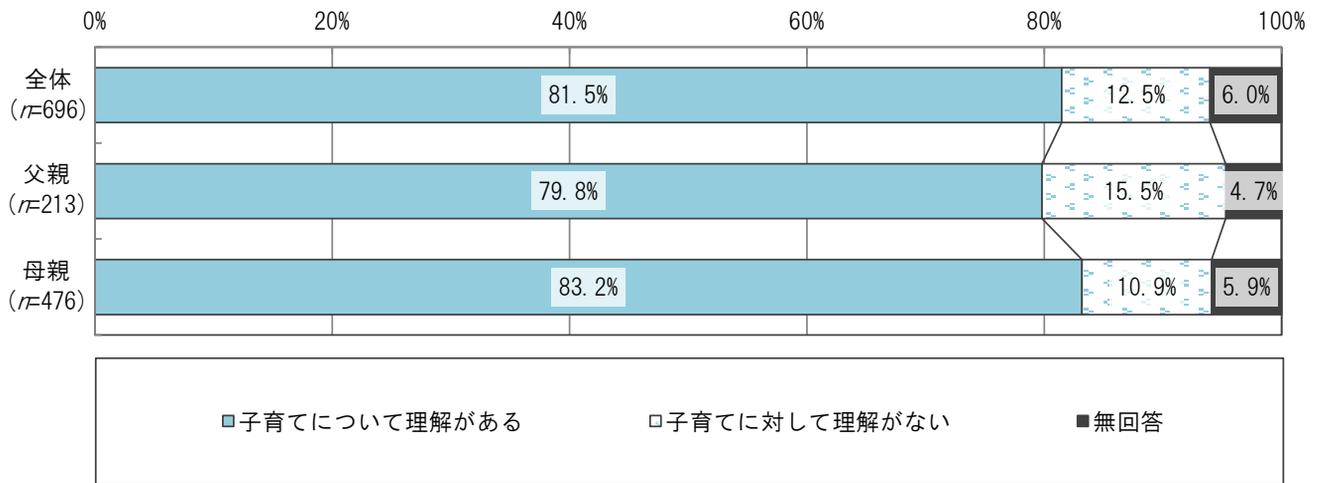


「その他」の主な回答

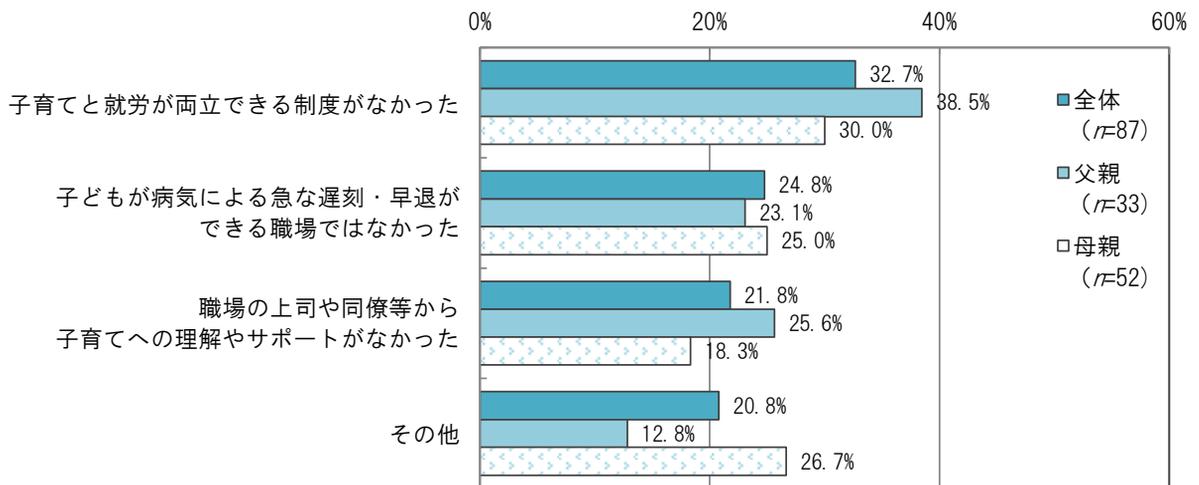
- 家事代行やベビーシッターを必要としている人と、提供できる人のマッチング機能
- 託児に関する情報の提供（託児所や病児保育の空き状況確認・予約機能など）
- 子どもの健康管理に関わる情報の提供（予防接種の時期、休日の当番医の情報など）
- 求人情報や資格・免許取得に関する情報
- オムツ替えシートのあるトイレの位置情報が分かると便利（赤ちゃん用だけでなく、障がいのある大人にとっても便利）
- アプリ以外にお金をかけてほしい（子育て支援や公園等の整備など）

問16 職場の子育てに対する理解

- 全体では81.5%が「子育てについて理解がある」と回答しているが、「子育てに対して理解がない」という回答も一定数ある。
- 「子育てに対して理解がない」と感じている人の割合は、母親に比べ父親の方が多くなっている。



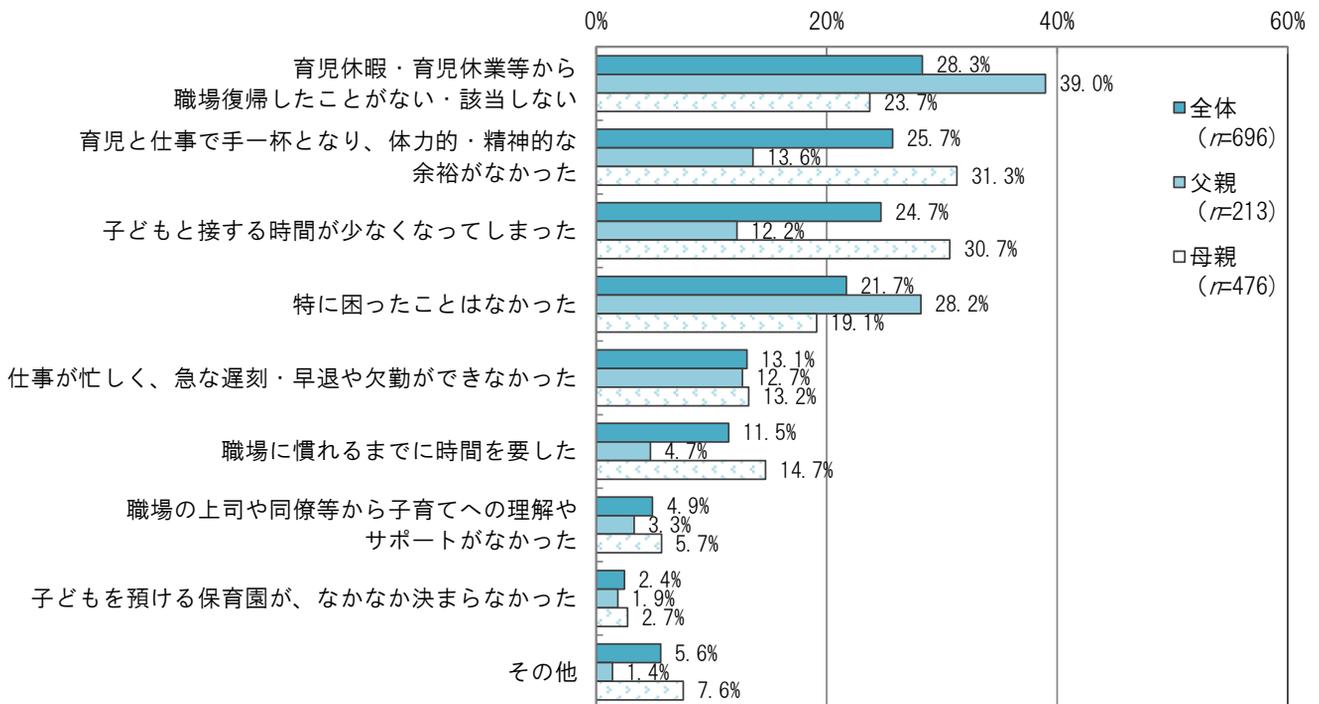
- 「子育てに対して理解がない」と感じる理由について、「子育てと就労が両立できる制度がなかった」という回答が32.7%と最も高くなっていた。この傾向は、母親に比べ父親において高くなっている。
- 「その他」の回答は、父親よりも母親から多く挙がっている。



「その他」の主な回答

- 育休・時短勤務など制度はあるが取得しづらい雰囲気がある
- 子どもが病気等の理由で休むと嫌味を言われたり、「迷惑だからやめろ」と言われる
- そもそも有給休暇を取得させてもらえない
- 職場の規模的に、他の人の負担を考えると休みを取得しづらい
- 上司が子育てをしていないこともあり、理解がないのだと思う

- 全体では、「育児休暇・育児休業から職場復帰したことがない・該当しない」が28.3%と最も高くなっている。この傾向は父親において顕著である。
- 全体では、次いで「育児と仕事で手一杯となり、体力的・精神的な余裕がなかった」が25.7%、「子どもと接する時間が少なくなってしまった」が24.7%となっていた。これらについては、特に母親の回答割合が高くなっている。
- 父親においては「特に困ったことはなかった」という回答の割合が2番目に高くなっていた。職場復帰後の育児負担は母親に偏っていることがうかがえる。

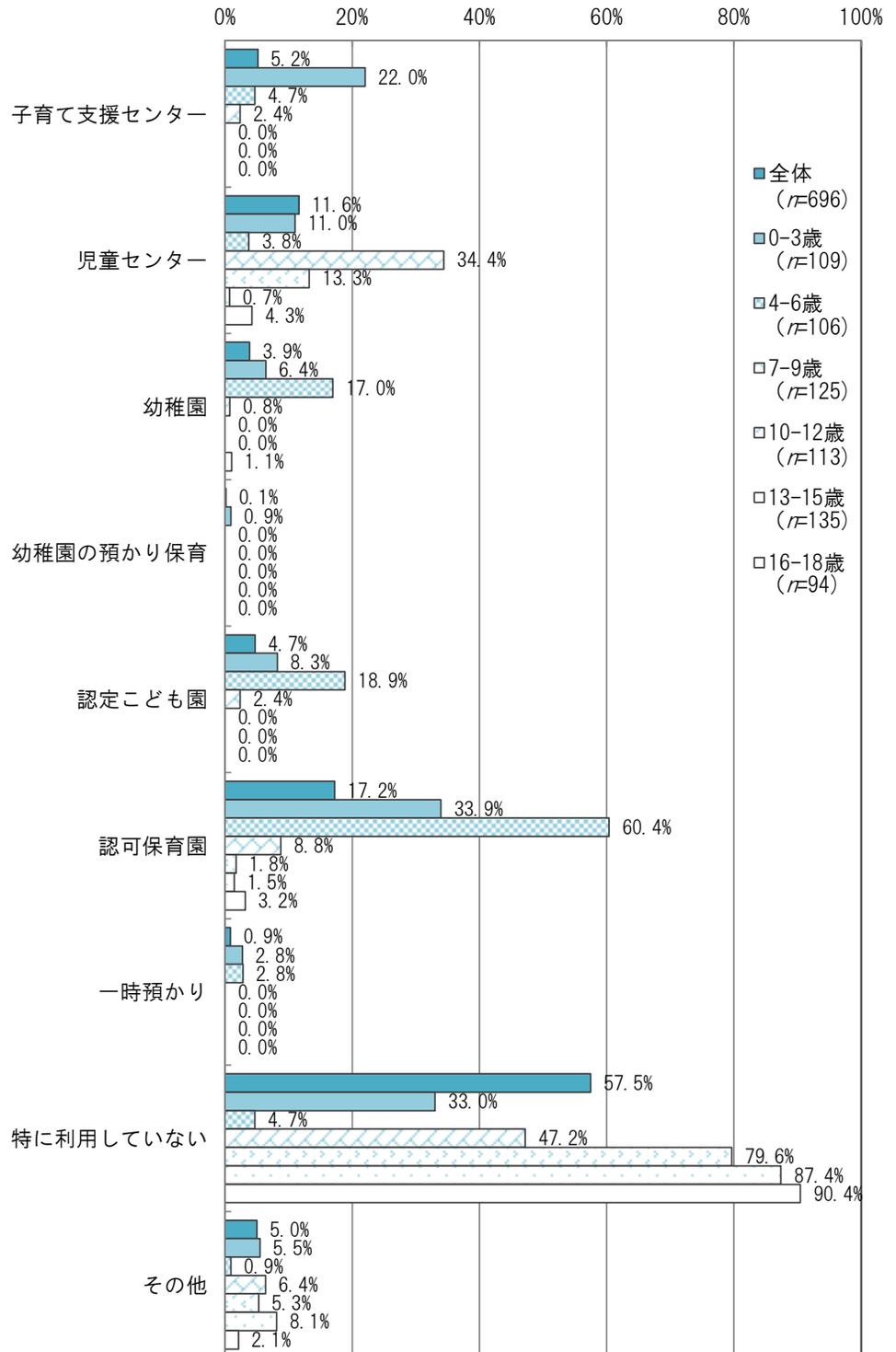


「その他」の主な回答

- 妊娠時に退職を勧められたり、迷惑がられたりした
- 育児休業の制度はないと言われた
- 育児休業を取得しづらい雰囲気であった
- 子どもの体調不良等の際に預ける先がない
- 子どもの体調不良等の際に休みを申し出づらい（職場が休みづらい雰囲気、嫌味を言われるなど）
- 家事や学校行事などについて、家族の協力が得られない
- 自営業のため児童館に預けることができず困っている
- 復帰直後の異動やキャリアダウン
- 職場の仕事面での配慮がない（時短になっても仕事量が変わらない、残業が半強制など）

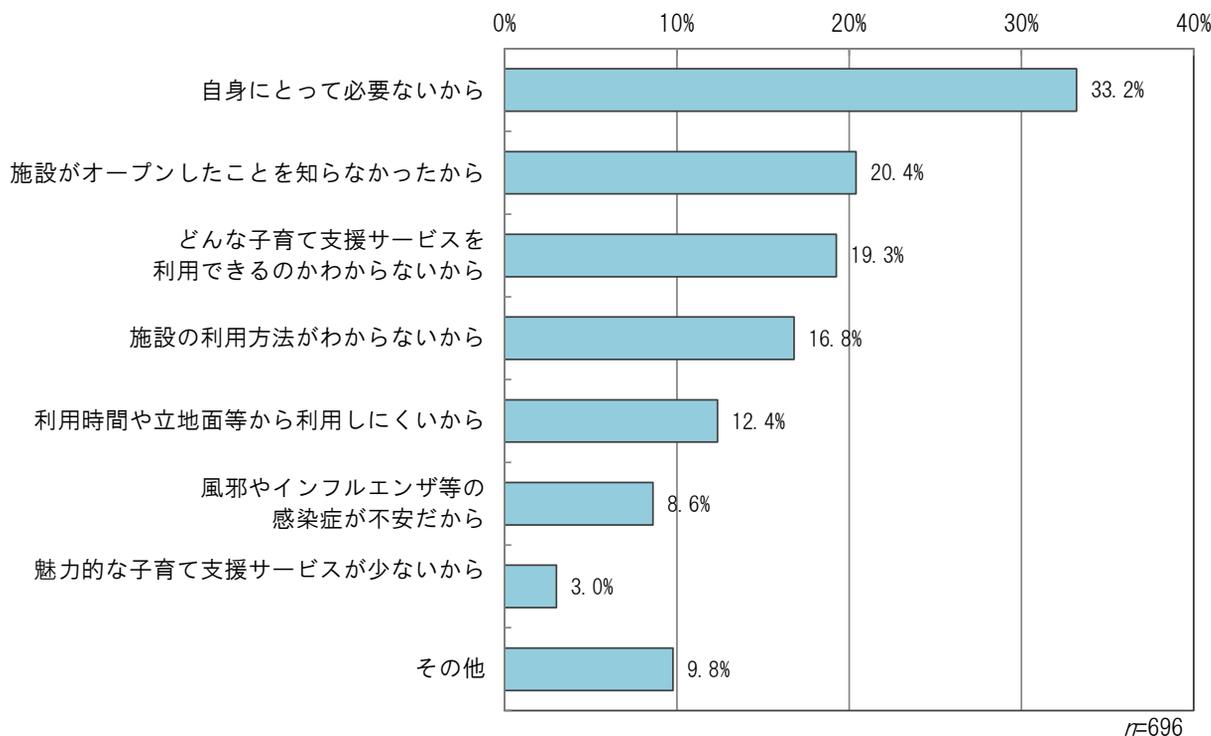
問18 宛名の子が日頃利用している教育・保育の施設

- 0歳から3歳までの子を持つ親のうち、「子育て支援センター」を利用している人は22.0%に留まっている。
- 問13において、行政に期待する取り組みとして「子育て支援施設等の支援サービスの充実」と回答した人は32.8%おり、利用したいサービスがない、あるいは利用できるサービスが認知されていないといった可能性が考えられる。
- 「その他」の主な内容は「ファミサポ」「地域公民館」「放課後デイサービス」「親子教室」「事業所内託児所」「スイミングスクール」などである。



問19 botaを利用したことがない理由

- 「自身にとって必要ないから」とが33.2%と最も多く、次いで「施設がオープンしたことを知らなかったから」が20.4%、「どんな子育て支援サービスを利用できるのかわからないから」が19.3%となっている。
- 問13の結果では子育て全般への支援ニーズが高くなっている。利用者を増やすために、利用者にとって必要なサービスを提供すること、利用可能なサービスについて広く周知することが重要であると考えられる。



「その他」の主な回答

- 行ってみたいが機会がない（なかった）
- 利用する時間がない、忙しい
- 利用料が高い・利用料がかかる
- 距離的に行くことが難しい
- 子が利用する年齢でない・利用して良い年齢かわからない
- 子どもが保育園等に通っているため
- 小学生が友達同士で遊びに行けるような魅力がない
- 予約制で気軽に行きづらい・買い物ついでにふらっと寄れない
- ホームページが分かりづらい
- 車でのアクセスのしづらさ
- 授乳、お昼寝などタイミングを計るのが大変そう
- 子どもに障がいがあり、トイレに大人用のおむつ替えシートがなく利用できない
- （親が）人見知りのため、なかなか行く勇気が出ない